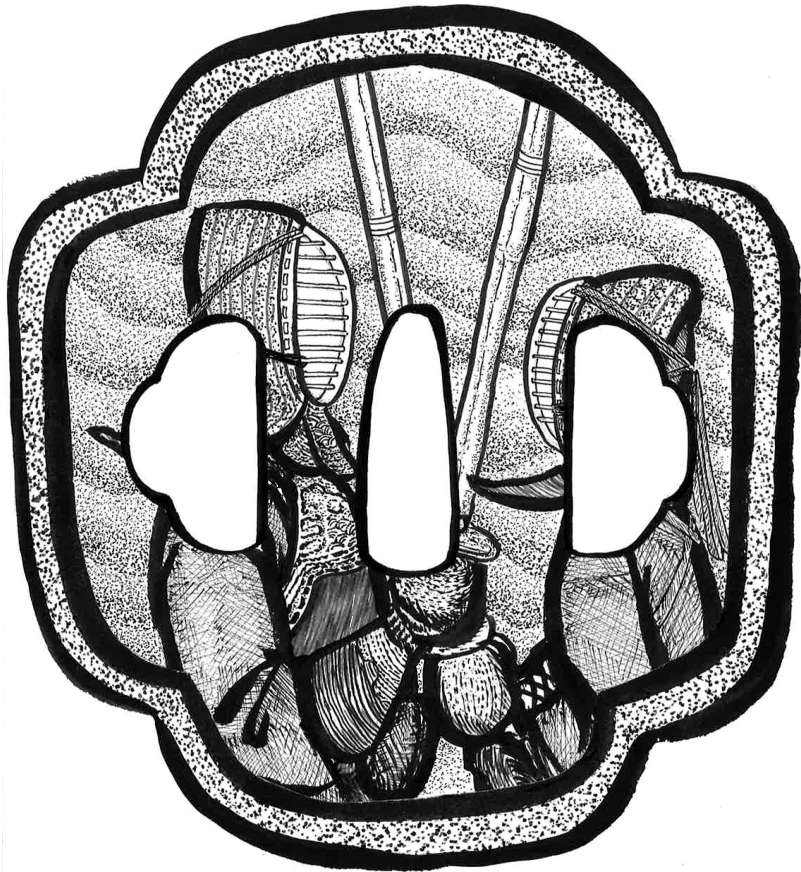


剣 縁

— 伝え合う武蔵の心 —



武蔵大学剣道部創部65周年記念誌

山本健一	山本健二	山本健三	山本健四	山本健五	山本健六	山本健七	山本健八	山本健九	山本健十	山本健十一	山本健十二	山本健十三	山本健十四	山本健十五	山本健十六	山本健十七	山本健十八	山本健十九	山本健二十	山本健二十一	山本健二十二	山本健二十三	山本健二十四	山本健二十五	山本健二十六	山本健二十七	山本健二十八	山本健二十九	山本健三十	山本健三十一	山本健三十二	山本健三十三	山本健三十四	山本健三十五	山本健三十六	山本健三十七	山本健三十八	山本健三十九	山本健四十	山本健四十一	山本健四十二	山本健四十三	山本健四十四	山本健四十五	山本健四十六	山本健四十七	山本健四十八	山本健四十九	山本健五十	山本健五十一	山本健五十二	山本健五十三	山本健五十四	山本健五十五	山本健五十六	山本健五十七	山本健五十八	山本健五十九	山本健六十	山本健六十一	山本健六十二	山本健六十三	山本健六十四	山本健六十五	山本健六十六	山本健六十七	山本健六十八	山本健六十九	山本健七十	山本健七十一	山本健七十二	山本健七十三	山本健七十四	山本健七十五	山本健七十六	山本健七十七	山本健七十八	山本健七十九	山本健八十	山本健八十一	山本健八十二	山本健八十三	山本健八十四	山本健八十五	山本健八十六	山本健八十七	山本健八十八	山本健八十九	山本健九十	山本健九十一	山本健九十二	山本健九十三	山本健九十四	山本健九十五	山本健九十六	山本健九十七	山本健九十八	山本健九十九	山本健百
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	------

前書き

武蔵大学剣道部は1959年（昭和34年）11月に初代剣友会会長長谷川勲先輩を中心とした会員6名の剣道同好会として誕生しました。翌1960年（昭和35年）12月に部への昇格が認められ、その年に行われた四大戦男子団体準優勝の成績が、剣道部の最も古い大会成績として剣道部年譜に残されています。以来、1990年（平成2年）に30周年記念式典、2000年（平成12年）に40周年記念式典、そして2010年（平成22年）に50周年式典と周年行事が開催されてきました。しかし残念ながら、佐藤則夫前剣友会会長を中心に、2020年（令和2年）に予定されていた60周年記念式典は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、やむなく中止となりました。

この新型コロナウイルス感染症の影響による数年間の空白は、世代間の繋がりの希薄化に拍車をかけました。そんなある時、現役の学生部員から次のような言葉を投げかけられました。「先輩、僕たち、もっと武蔵大学剣道部の歴史を知りたいです。」この一言がきっかけとなり、語り伝え合うことによって世代間の繋がりを取り戻そうという願いから、創部60周年記念懇親会の開催、あわせて記念誌「剣縁―伝え合う武蔵の心―」の発行が決議されました。

今回の記念誌は、次の四部を柱に編集しました。
 第一部は「武蔵大学剣道部の成り立ち」として、武蔵大学剣道部創部の功労者でいらっしやる9名の先生・先輩方の文章を、過去の記念誌から引用させていただき掲載しました。
 第二部は「剣道部創成期の思い出」として、6名の先輩方から原稿をいただきました。拝読させていただきました。先輩方の文章から感じる瑞々しさに驚きました。半世紀以上前の思い出は、時を経てなお輝きを放ち続けているように感じました。

第三部は、平成23年から昨年度まで、16年間の卒業生の方々から、それぞれの代の思い出についての原稿をいただきました。16年という歳月を文章を通して拝見すると、先輩から後輩への思いや、それぞれの代のご苦労などが、よく分かります。
 第四部は、今まさに学業と両立し剣道部での活動に励んでいる「現役剣道部員の紹介」です。現主将の土方君の言葉と、全部員の紹介文を掲載しました。

この記念誌を通して、お互いの繋がりを確かめ合い、旧制武蔵高等学校剣道部佐々木陽信先輩が私たちに残してくださった「剣縁」という言葉に、改めて感謝したいと思えます。これからの武蔵大学剣道部の、そして武蔵大学剣道部剣友会の益々の発展を心から祈念し、記念誌前書きとさせていただきます。

令和8年4月

武蔵大学剣友会



剣 縁

本誌のタイトルである「剣縁」は読んで字の如し、説明の要はありませんが、この言葉は、故佐々木陽信氏（旧制高校5期卒、日本鋳業（現JX金属）の社長、会長を務められた。）が昔から好んで使われていました。

武蔵大学剣道部と武蔵高校剣友会の固い絆もこの「剣縁」によるものです。

写真は、故佐々木先輩の揮毫された「剣縁」。この剣縁の手拭を使って稽古に励んだ剣友会員も大勢いることと思います。

写真で綴る65年



昭和35年頃



武蔵大学剣道部（同好会）第一回夏合宿
昭和三十六年 於、沼津千本松原
沼津市営臨海寮



昭和41年 四大戦初優勝





昭和51年 夏合宿



昭和52年 夏合宿

剣 縁

— 青春を彩る合宿 —



武蔵大学剣道部創部40周年記念誌

錬心館

— 剣と友を愛する心と和 —



武蔵大学剣道部創部30周年記念誌

記念誌の変遷

剣縁是妙

武蔵大学剣道部創部六十周年記念誌

武蔵大学剣友会 令和四年吉日

心胆錬磨

創部五十周年記念誌

武蔵大学剣道部

旧制の先輩方との思い出の写真



萩生先輩退官慰労会（日鉦城山寮）



全国の旧制先輩方との合同稽古会（衆議院道場）



旧制剣道部一期生八藤東禧先輩還暦祝賀会



同上



景山先輩全剣連会長就任祝賀会



景山先輩全剣連会長就任記念稽古会



大野先輩範士授与祝賀会



武安先輩全剣連会長就任祝賀会

旧制高専剣道大会に向けた旧制の先輩方との合同合宿



旧制の先輩方との初合宿（奥多摩錬心館）昭和52年5月7日



同上



旧制の先輩方との合宿（山梨県三つ峠村営体育館）



同上

前書き

剣縁という言葉について

写真で綴る65年

目次

第一部 武蔵大学剣道部の歴史

武蔵大学剣道部「祝」30周年

光陰矢の如し

大学錬心30年

武蔵大学剣道部設立40年を祝う

武高剣友会と武蔵大学剣道部

戦後「錬心館」再建の思い出

剣 縁

剣 縁

これからの剣友会―生涯剣道を目指して―

大学剣道部当初の思い出

第二部 剣道部創成期の先輩方から後輩へ

「弥栄」のこと

四大学剣道大会初優勝

日鉦 城山寮

武蔵大学 初代剣道部師範

武蔵大学 初代剣道部師範

武蔵大学 初代剣道部部長

元全日本剣道連盟会長

根津育英会専務理事

武高剣友会幹事

武高剣友会幹事

元日本鉦業株式会社社長

財団法人神道大系編纂会
常務理事

武蔵大学剣友会 初代会長
武蔵大学剣友会 第二代会長

関根 日吉

関根 日吉

伊能 敬

武安 義光

荻生 敬一

川上 玄

佐々木陽信

大野 健雄

長谷川 勲

土屋 一徳

昭和39年卒

昭和41年卒

昭和43年卒

岡田 行一

伊藤 巖

水木 征二

1

2

3

14

18

19

20

21

22

25

26

28

30

31

36

36

38

関根日吉範士から受けた教え

日曜稽古

創部65周年に寄せて

武蔵大学剣道部杯高校生剣道錬成大会の歴史

第10回武蔵大学剣道部杯高校生錬成大会を観戦して

第10回武蔵大学剣道部杯高校生剣道大会を見に行った感想

第10回記念武蔵大学剣道部杯高校生剣道錬成大会 審判長講評

剣道部愛唱歌紹介 大学讃歌 西征行 武蔵剣道小唄 惜別の賦

第三部 平成23年（令和7年）卒業生 4年間の思い出

剣道部への想い

私の過ごした4年間

大学から始めた剣道

剣道を好きになれてよかった

素晴らしい出会い

挑戦と感謝

4年間の思い出

学びの4年間

剣道部の転機と主将の理想像

剣と共に

昭和44年卒

昭和44年卒

昭和48年卒

昭和57年卒

昭和44年卒

昭和39年卒

警視庁主席剣道師範

紙谷 正之

石井 経剛

田中 伸和

赤尾 嘉一

紙谷 正之

日暮 道生

西川清紀先生

平成23年卒

平成24年卒

平成24年卒

平成25年卒

平成26年卒

平成27年卒

平成28年卒

平成29年卒

平成30年卒

令和31年卒

中村 亮太

加部 雄平

川上 舞
(旧姓 野沢)

高橋 輝

高橋 舞
(旧姓 倉林)

川邊 翔

野村 竜生

鈴木弘二郎

麻生 周馬

高橋 耕陽

39

40

41

42

43

43

44

46

51

51

52

53

53

54

54

55

56

57

勝敗を越えて得たもの

コロナ禍で学び得た剣縁

仲間と掴んだ新人戦の舞台

あの頃は気づかなかった日常

武蔵大学剣道部4年間の思い出

全日本女子学生剣道大会個人戦出場

新しい風と伝統

皆さまお久しぶりです！

夏合宿再開

女子部の再出発

2024 関東学生剣道優勝大会

個性豊かな10人

剣縁に感謝

第四部 現役部員の青春

武蔵大学剣道部年譜

武蔵大学剣道部剣道部規約

武蔵大学剣道部剣友会規約

編集後記

令和2年卒

鈴木 拓海

58

令和3年卒

金本 龍輔

59

令和3年卒

関根 実紗

59

令和3年卒

岡田 康代

60

令和4年卒

嶋村 優

60

令和4年卒

酒井 実祐

61

令和5年卒

菅田康二郎

62

令和5年卒

富田あすか
(旧姓 石山)

63

令和6年卒

金井 将瑛

64

令和6年卒

安住 幸恵

64

令和7年卒

倉島 春太

65

令和7年卒

鈴木 愛梨

66

令和8年卒

佐野 一帆

67

69

81

86

90

93

第一部

武蔵大学剣道部の歴史

武蔵大学剣道部「祝」30周年



武蔵大学剣道部師範 関根 日吉

〃「剣道部諸君に思う」〃

月日の経つのは早いもの……私が貴大学剣道部の師範として、初めてお世話になったのは昭和三八年で二七年前のことでした。

当時を振り返ってみますと、剣道部も出来て日が浅く、各大会の試合でも一、二回戦で敗退する場面が多く、さみしかったように思い出されます。

そこで、当時私は、学生諸君に対し将来の展望など考えた時、この俛では……剣道の意義は極めて大きく、深はず、心身の鍛練により技術の向上は勿論ですが、学校を代表して試合をする選手諸君に数多く優勝して、素晴らしい喜びとその感触を深く味わっていたき武蔵大学剣道部の和と果敢なる伝統を構成し将来、社会に旅立つ卒業生諸君も母校剣道部の誇りと自信を持てるような人格形成を目標にし、私自ら心を鬼にして厳しい稽古、又指導に徹した時期もありました。

当時を思いおこせば、剣道部の諸君、特に主将だった各氏にはさぞかし辛く、苦しい毎日だったろうと今更ながら推察しております。皆さんがよくぞ不平不満を言わずついて来てくれたと思っております。しかしその苦勞を耐え抜いた力が蓄積され、後になって優勝の栄冠に輝くことが出来ましたし、大きな自信になったと思っております。そしてその経験が実社会に出ても大いに役立つ事と心に念じ稽古や試合等で学生諸君には大変苦勞かけましたが、反面私の行動は間違っていないかと思っております。

多くの先輩方が学業のかたわら築かれた剣道部の伝統を守り、そして武蔵大学剣道部が一層発展されますことを祈念する次第であります。自ら剣道斯道に打ち込む一人として正しい剣の道には、正しい躰もあり、竹刀を合わせる中には「剣と人を愛する心と和が育つ」と言うように日本古来国民の遺産である剣道の理念を、生命の燃えつづく限り、生き甲斐にして守りぬく所存であります。

最後に永い永い間、剣道部と私達に限りないご理解とご協力下さった関係各位と大学の先生方並びにOBの方々に感謝の意を申し述べ記念のご挨拶といたします。

光陰矢の如し



武蔵大学剣道部 名誉師範 関 根 日 吉

武蔵大学剣道部四十周年記念誌の発行に、心より「お祝い」を申し上げます。

「光陰矢の如し」の譬どおり、私にとってもこの四十年間は長いようで短い「時」でありました。

想い起こせば、私が昭和三十八年頃、武蔵高等学校剣道部の師範を経て武蔵大学剣道部師範を拝命し、今尚、名誉師範として在籍していることには、本当に「感謝」と「喜び」を覚えます。

特に、今は亡き初代剣道部部长 伊能敬先生との「出会い」と「お別れ」、そして、その間にいただいたご高配の数々は終生忘れることはできません。

また、長谷川勲剣友会会長の若い頃の活動振り、四大学戦で初優勝した時の、嶺岸キャプテンの活躍等、剣道部創生期から東都大学での数々の優勝を飾ってきた歴代部員諸氏の努力の蓄積等、今日までの思い出には、「枚挙に遑なく」正に「喜びも悲しみも幾年月」でありました。

私も創生期以来一貫して「礼節と和」をモットーに、稽古は厳しくとも、道場を離れたら、上下を問わず「和気藹藹の精神」でお互いに人間的な付き合いが出来るよう努力してきたつもりなので、その意味合いからも、各年代の合宿の思い出を中心にした写真で綴る本誌の企画は洵に当を得たものと思います。

本誌の発行を機に、剣友の皆さんが年代を超えての交流の輪をより一層広め、武蔵大学剣道部四十年間の歴史と伝統に新たな息吹きをそそいで、武蔵大学剣道部の発展の支柱となり母校の名声を確固たるものにして頂きたいと思います。

武蔵大学剣道部の未来に幸あらんことを祈ります。

大学錬心30年



武蔵大学剣道部長 伊能敬

武蔵大学に於て、昭和三十四年十一月に長谷川勲君を中心とした会員六名の剣道同好会が発足した。翌三十五年二月に部昇格が認められ、三十六年四月から、正式に武蔵大学体育連合会剣道部としての歩みが始まった。昭和三五年に、当時の私の本職は武蔵高等学校の教師で、大学では兼任助教教授であったが、部員からの要望に応じ、部長をお引受けし、それ以来の剣道部とのお付き合いとなった。(私が大学の専任になったのは昭和三八年のことである) 剣道部草創期の部員諸君の苦勞は、道場の問題、高校剣道部との折合い、新部員の確保など並大抵のものではなかったが、昭和三八年に関根日吉先生を師範にお迎えして、剣道部は剣道部らしくなった。

その後の部の成長発展、数々の戦績については、年譜などの記録に譲るが、我が剣道部の輝かしい栄光の歴史は、常に関根師範と共にあった。それを三十年間、すぐ傍で見守ってくることができた私は、幸せ者であると思ひ、感謝の気持ちで一杯である。

三十年の間には、色々なことがあった。長い時の流れが、常に順風満帆という訳には行かないのは当然である。部員の一人一人に、様々な悩みあり、迷いあり、愛憎あり、波風も立った。しかし我が剣道部は遅しく三十年を歩み続けて来た。

この歴史を支えたのは、一つに「和」を尊ぶ関根師範の御指導であり、大学剣友会の先輩たちのバックアップである。今回の三十周年記念行事を見ても、先輩たちの行動力の結集は見事なものがある。

もう一つ、これらの陰に、旧制武蔵高校剣友会の諸先輩の温かい御支援のあることも忘れてはならない。大野健雄・景山二郎・野中忠夫の諸先輩を始めとする多くの方々を以ての御指導と、その間に与えて下さった精神的影響力が、部の伝統に与えたものは小さくない。

さて、先に愛憎あり、と書いたが、男女の部員がいれば当然恋も生まれる。部員同士めでたく結婚にゴールインしたカップルは何組もある。

しかし、まことに迂闊で野暮な部長は、結婚します、或いはしましたという最終報告を聞くまで、全くその口マンスに気付かなかったケースが屢々であった。それに引換え、関根師範は地獄耳というか、情報入手がお早かった。さすがに部員をしっかり掌握しておられたのだ。それを知ってからは、私も関根先生経由で、やや情報に明るくなることができた。

部の最近の悩みは、運動部全体に共通した問題である新入部員の減少である。大学にはいったら存分に遊びたい、厳しい稽古は真つ平だという風潮の中で、一年生部員を獲得するのは至難の技である。

毎年ハラハラする綱渡りが続いている。しかし部員たちの必死の努力で、我が剣道部は未だ断絶していない。三十年の歴史をしっかりと守り続けている。

これからも幾多の困難を乗り越えて、武蔵大学剣道部は永遠に栄光の歴史を歩み続けるであろう。現役部員の一層の奮起、先輩諸兄弟の更なる御支援を切に願って止まない。

武蔵大学剣道部設立

四十年を祝う



全日本剣道連盟 会長 武 安 義 光

武蔵大学剣道部の発足当時を顧みると、われわれは旧制高校剣友会の運動で作った、灌川西側の剣道場を思い出さざるを得ません。

昭和二十年の敗戦で、剣道は大きな打撃を受けました。軍国主義の代表とされた剣道は占領軍によって弾圧され、学校や公的機関での活動を禁止されました。講話条約の成立で独立を回復し、ようやく息を吹き返し、昭和二十七年には全日本剣道連盟が発足、学校剣道も動きだしました。しかし新制大学と、高校、中学となつた武蔵学園では、戦前の剣道場「錬心館」を戦災で失っており、細々と小グループの活動が見られる程度でした。昭和三十一年の秋、武蔵剣友会の席で、ぜひ錬心館を復活させようとの議がまとまり、活動を開始しました。戦後の復興は一応終わったとはいえ、国民も学園も貧しく、大卒の初任給は一万円くらいで、皆暮らしに追われている時代でした。我々は、本田二郎（五回卒）さんを中心に学校側とも折衝、協力を得つつ募金活動を行い、会員、父兄、同窓生などに、学園、東武鉄道などの支援を受け、当時の金で二百五十万円の募金に成功、建築家である剣友会員川上 玄（十八回生）君の設計、同君の勤め先の川村建設（株）の手により、約五十坪の道場を昭和三十三年十一月に竣工させることができました。

ここで稽古の場を得て、武蔵高校、中学の剣道部とともに、大学剣道部の初期の歴史が培われたと思います。その後この道場は学園の施設の整備に伴って、大学、高中のそれぞれに現在の道場が作られるとともに、十年の短い生涯を終えました。しかし我々のささやかな努力が、なにがしかの役割を果たしたものと信じております。

さて、武蔵大学剣道部四十年、世に送った多数の卒業生はそれぞれ立派な社会人として、日本社会を支えておられること信じます。ここで剣道部の活動に望むことを一言します。大学における剣道は剣道部で行う所に意義があります。そこは学問の傍ら、お互いに切磋琢磨で人間を鍛える道場であつた欲しい。剣道のもつ特性が、部の生活を一層充実させます。「錬心五十年」に、ある先輩が次のように述べられました。「剣道というよりは、高校剣道部生活での精進が、つましき私の青春をどんなに美しく彩ってくれたことか。そして何よりも貴い生涯の親友を与えてくれたことに尽きざる感謝の意を捧げたい。」この言葉を記して、剣道部、剣友会の今後の充実、発展を祈念します。

武高剣友会と武蔵大剣道部



一 敬 生 萩

根津育英会 専務理事
武高剣友会 幹事

一、錬心館道場の再建
昭和二十年（一九四五）四月十四日の空襲により、旧錬心館（根津研の前）は全焼した。戦後、昭和三十一年（一九五六）六月、郵政省剣道場（八藤東禧兄、高校一期卒、当時経理局長）で稽古後の剣友会において、錬心館再建の議がおこり、武蔵学園当局（吉野信次校長）と交渉後募金活動をはじめた。（注一）かくて昭和三十三年（一九五八）十一月、新錬心館道場が誕生した。（現高中プールのところ、約五十坪、工事代金二三五万円）（参照一）

一、大学剣道同好会、剣道部の発足

昭和三十四年（一九五九）十一月、長谷川勲君（高校三十一期卒、大学十回卒）が中心となって六名で同好会を発足させ、三十七年、剣道部に昇格、伊能敬兄（高校十八期卒）が剣道部長に就任した。昭和三十八年、景山二郎兄（高校七期卒）の紹介により関根日吉先生を師範に迎えた。その後、大野健雄兄（高校七期卒）、野中忠夫兄（高校十期卒）、武安義光兄（高校十一期卒）、田中輝一兄（高校十七期卒）、打木城太郎兄（高校二十一期卒）などの旧制武蔵高剣友会のメンバーがしばしば大学剣道部員の稽古に参加した。（注二）

一、「錬心」の復刊、「錬心五十年」の発刊

武高剣友会の機関紙「錬心」は、第一回京都インターハイの出場を記念して、昭和八年（一九三三）創刊され、毎年一回の出版を重ねたが終戦に至り中絶のやむなきに至った。戦後昭和三十九年（一九六四）復刊第一号を再刊することとなり、その企画と原稿の依頼は、武安義光兄と萩生が行ったが、その編集、校正等の実務は剣道部長の伊能兄及び大学剣道部の諸君に依頼した。

また昭和五十七年（一九八二）に十月に「錬心五十年」の冊子を刊行したが、その掲載写真については、伊能敬兄にすべてお願いし、その校正については大学剣道部OGの田中（北山）礼子さんを煩わした。

一、新錬心館の取り壊しと大学錬心館の誕生

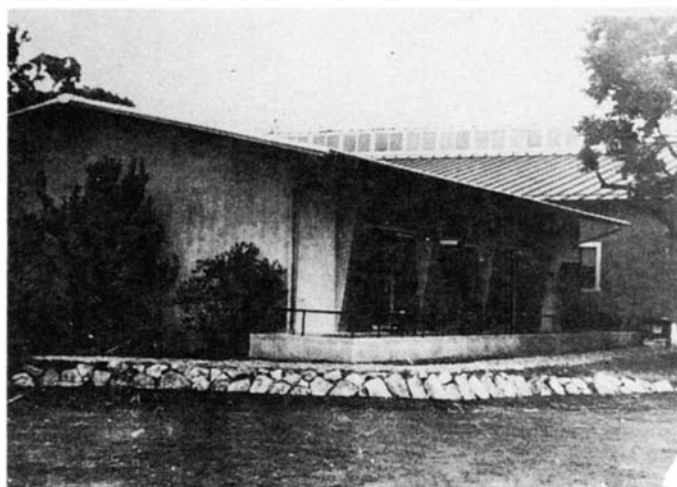
学園創立五十周年の事業として、高中新校舎、体育館、プール等の建設を行うこととなったため、新錬心館を取り壊すこととなり、昭和四十三年十月、「新錬心館と別れを告げる会」（参照二）を行い、また十一月、「新錬心館を偲ぶ座談会」が、司会武安義光、出席者 本田二郎、野中忠夫、萩生敬一、伊能敬、長谷川勲、岡野学、嶺岸弘通、安藤栄重のメンバーで開かれた。（注三）

一、「萩生道場」の誕生

昭和四十八年（一九七三）十一月、武高剣友会の会員のうち、昭和十五年（一九四〇）の武蔵高が優勝したインターハイに参加できなかった比較的若い剣友会員が自称ヤングと称し（当時四十八歳以下）、毎月一回、衆議院道場で稽古を復活する会、いわゆる「萩生道場」を発足させた。（注四）この稽古会は、武高剣友会の会員のほか、新制武蔵高校の剣友会員、武蔵大学剣友会員を中心とし、その他旧制高校、陸軍士官学校卒業者など広く剣道愛好者によるもので、二十七年間続けて現在に至っている。この「萩生道場」の稽古会は、その発足後、毎年の武蔵大学の越年稽古（参照三）に参加すると共に、昭和五十年（一九七五）以降行われている旧制高専剣道大会のための合宿（参照四）に、しばしば武蔵大学剣友会会員の参加を得ている。

一、剣友会懇親会と周年記念行事

武高剣友会は、毎年、故佐々木陽信兄（高校五期卒）が会長であった日本鋳業の六本木クラブで、懇親会（参照五）を開いているが、多数の大学剣友会会員の参加を得ている。その他昭和五十八年（一九八三）の野中忠夫兄百日祭および「萩生道場」十周年記念、平成五年（一九九三）「萩生道場」二十周年記念、景山二郎先輩全日本剣道連盟会長就任祝賀パーティ、平成十年（一九九八）の武蔵高剣道部七十周年記念、「萩生道場」



参照 1 新錬心館



参照 2 新錬心館に別れを告げる剣友会
(昭和43年10月13日)

二十五周年記念、武安義光先輩全日本剣道連盟会長就任祝賀パーティには、いずれも大学剣友会会員の協力、援助を得ている。

一、あとがき

武高剣友会と武蔵大剣道部、剣友会とは、その成立の時以来、伊能剣道部長、関根師範を通じ、また毎年の越年稽古、合宿、荻生道場での稽古、剣友会の懇親会、記念行事のパーティ等、その絆は深いものがある。佐々木陽信兄のいう「剣縁」を今後とも大事にしていくとともに、武蔵大学剣道部、剣友会の益々の発展を祈ってやまない次第である。

- | | | | | |
|----|---------|---------------------|------|--------------|
| 注一 | 「錬心五十年」 | 寄付集めこぼれ話(抄) | 本田二郎 | 二二四頁 |
| 注二 | 「錬心五十年」 | 武蔵大学 | 伊能敬 | 一一〇頁 |
| 注三 | 「錬心五十年」 | 武蔵大学剣道部の歩み | 長谷川勲 | 二五二頁 |
| 注四 | 「錬心五十年」 | 新錬心館を偲ぶ会
荻生道場の歩み | 岡田剛 | 一三〇頁
一一一頁 |



参照3 越年稽古



参照4 ミツ峠 合宿



参照5 武蔵剣友会



武蔵高等学校剣友会幹事 川上 玄

戦後「錬心館」再建の思い出

満八十四歳。創立五十周年という記念すべき節目を、多くの大学剣友会諸兄、現役剣道部諸君、剣縁諸先輩と共に祝える事を慶び、併せて大学剣道部の発展を願ってやまない。

私も人並みに人生の苦境や岐路に直面してきたが、竹刀に汗した昔を思い出しては、それを克服してきた。剣友諸兄から受けた恩恵については筆舌に尽くし難いものがあつた。

様々な思い出の中で、私が最も大切にしているのは、戦後の錬心館再建に、設計者として関与させて頂いたことだ。戦前の錬心館は戦火で烏有に帰し、戦後暫く剣道は御法度。昭和三十三年に剣友会員が資金を募って五十坪の道場を再建した。場所は現中高グラウンドの西北の位置。今から見れば質素な道場だったが、この再建の竣工を機として武蔵キャンパス内で剣道稽古が復活したのであつた。

道場の屋根は、ムキ出しの鉄骨梁を、一体化した屋根天井で覆っただけ。しかも波板ガラスの採光天窓付きだ。夏は暑かつたと思うが、何せ、設計者の現役時代は戦争末期。稽古は炎天下、靴履きにゲートルを巻いてテニスコートで行つた。稽古は暑いもの、と思ひ込んでいた。然し道場の通風は考慮した。グラウンド側は掃き出しの大窓で、板戸を左右に引き込めば、南面は全て開放になる。道場床面と同レベルに芝生のテラスを設け、屋内屋外を一体化して溢れた時の野稽古に備えた。運動会には道場を来賓用の観覧席としても使いたい、という学校側の希望に添う名案だと自負していたが、荒稽古で床が絆創膏張りになるやら、汗臭いやらで、来賓用に使われたという話は聞かずに終つた。シャワーは水のみ。便所は無し。裏口からひと跳びで既存の便所に行けるように建物の配置を工夫した。

この質素な「錬心館」から大学剣道部の創始者たちは輩出。今日の隆昌へと発展してきた。全てが剣友会諸兄の努力の賜物。設計者の私までが共に喜べる仕合せに感謝したい。

剣 塚



日本鋳業株式会社 社長

佐々木 陽信

剣 塚

季節感のない南方のこととて、定かではないが、昭和十九年秋も末頃であったと思う。サイゴン郊外シヨロンの南方第二陸軍病院の営門を、足取り重く出て征く徒手の部隊があった。ビルマ部隊の入院兵士が病傷状の如何を問わず独歩患者である限り、悉く原隊復帰を命ぜられ、漸く九死に一生を得て脱出したあの苛酷な戦場に再び身を投ずるのだ。しかもその大半は復帰すべき、己の原隊が既にあるう苦もないのを承知の上である。

その数日前該当の一員として、爪髪を封入したそれとなき覚悟の便りを留守家族に出した私が図らずも要手術患者として、数少ない担送患者と共に病院残留組となったのである。これはたまたま、同病院に軍医少尉として在任した渡辺豊輔君の格別の配慮によったものであろうことは直感したが、時既に君は他病院へ転属していた。

戦場における死生は寸秒寸尺の間に決する。渡辺少尉との奇遇なかりせば、ビルマ反攻最終部隊の一員に加えられ玉砕の運命にあったのである。小生が野戦病院から当病院に移送されて間もなく、年一、二回の行事である病院長以下全軍医の回診があった。その最後尾あたりの一少尉が、

ベッドに正座している私と、膝前に展げてある病床日誌とを見較べながら、俄かに小声で『佐々木先輩ノ姫高剣道部にいた渡辺です。またあとで』と一瞬の間に通り過ぎて行った。大学時代コーチに行つて、合宿を共にして以来の邂逅である。

その日から君が転出して行く迄の間、君の個室が私の病院生活を通じての唯一の寛いだ自由の場であった。『先輩、命を大切にしましょう。お互いに戦争以外でも少しは役立つ身です。』君が他病院に転出する際、ラム酒を交わしながら残していった言葉である。ビルマ兵士総退院のことを知り、君が既に私の為に工作をして呉れていたとは知る由もなかった。

終戦後、君の駒込病院時代、当社道場で剣を交えた後など、会う毎に、このことに触れると、『何とか残つて貰い度いと願う気持ちはあったが、あとは先輩の運ですよ。』と云うのみで取合つてくれない。本人の口から経緯らしいことをはつきり聞いたのは悲しいかな、君がこの世を去る僅か九日前、長崎医大病院の病室に於てである。

アフリカに居る筈の君が帰国し病篤しと聞いて馳せつけたのは昭和四十八年六月八日であった。長崎はもうすっかり夏で、夾竹桃が花盛りであった。鮮烈な思い出の日である。面会謝絶の病室の外で暫く待たされた。この間に恐らく用意されたのであろう。重態で横臥の儘と思つていたのに、君はベッドに端座して、目をガーズで拭かせながら私を迎え入れた。しかし左手はベッドの足方の鉄棒に結び付けた帯紐をしっかりと握つて上体を支えている。右手を挙げて『やー佐々木さん』と何時もの低い太い声である。その右腕内側には点滴の管がながつている。『よく遠い処を何しろ栄養はこの細い針一本からとる丈ですから、よくまあ今日まで保つているものです。』こともなげに先方からの挨拶を受けて、トッサには答える術もない。瘦身鶴の如くだが、骨太の腕にはまだ竹刀を握つた名残がある。静かな清々しい眼、情熱を秘め乍ら淡々と語る口調は、とても命旦夕を自ら知る人のものとは思えぬ。四方山の話のうち、こと陸軍病院の件に及ぶと『運がよかったのですよ。一少尉丈ではどうにもならないことだったが、話の分る人事担当が居て頼みを引受けて呉れたのです。』とあく迄御自分の功とはしない。

この間に病室に出入する看護婦には「サツキの尿量は？」とキツとした医大教授の声となる。「何瓦でした」「ソウカ」医師としてその数値は病状の一つのパロメーターである。患者と、その生命の苛なまれて行く道程を見届ける医師とが同一人格に併存しているのである。看護された夫人の御心中は如何ばかりであったらう。

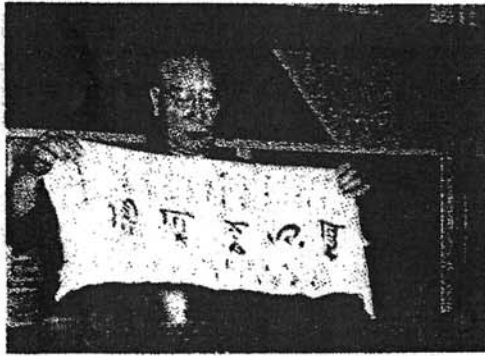
病室の壁に「灼けし地に医の礎は定まりぬ」の文字が掲げてあった。友人が書いた熱帯医学に献身した君への讃詞である。この句に正対し乍ら君の話はケニアに及ぶ。こちらもザイル・エチオピアの鉱山を開発している。ひとしきり話題はアフリカに移るが、こちらは最後の対面というギコチなさから抜け切れない。君には何の蟠もない。彼地を遠く目で追いながら、新しい熱帯医学への愛着を語る。さればとて格別の気負いもない。人事を尽した安心立命の境地というか、平常心というか、含笑入地の高僧の姿を君に見たのである。君が医学者として教授として、いやむしろ人間として、新しい熱帯医学の創設に、学生の指導に、大きな足跡を残し、真に悔ない生涯を送ったればこそ到達し得た心境であると

只々敬服の他ない。

君を見舞つてから約十日後、御本人の渡辺豊輔名儀差出しの封書を取って一瞬ハットした。果して君が生前用意して印刷させ、死亡日時のみを夫人に追補させた訣別の挨拶状であった。そのままご披露する。

拝啓
御挨拶

皆様お変わりありませんか。私は此の四月六日胃癌の手術の為、急にアフリカから緑の美しい日本へ送り還されて参りました。然し医者の不養生から手術は既に手遅れで、皆様より一足お先にあの世に参る事になっ



日鉱体育館で稽古に励む筆者

て了いました。

短くて長い、辛くて楽しい人生でした。殊に最後の数年間は、日本最初の外地に於る「総合的熱帯医学研究所」の建設「新しい熱帯医学は如何にある可きか？」の構想の仕事に当らせて頂きました事は、私には此上ない光栄でありました。ケニア日本両政府間の折衝は完全にまとまり、あとは設計、人事等の最後の仕上げを待つのみとなりました。此であとは諸先輩、同志の皆様におまかせして安心してあちらへ参る積りです。勿論戦前の様な植民地的熱帯医学でもなく、又現在澎湃として日、米、欧に起りつつある様な学問的搾取の医学でもない、「我々は同じ人間なのだ」との意識に立った温い新しい熱帯医学であります。

私程多くの良き師、良き友に恵まれた仕合わせ者はないと思います。お一人／＼お手紙す可きですが、もう入院来一月余り注射のみで生きて居る体、その体力がありませんので失礼します。生前の御厚誼を深く感謝致します。遺族は妻、兼親友、兼愛弟子の麗子(46歳)一人でございます。ただ気がかりなのは誕生後僅か六年の若い病理学教室のみです。今向

学心に燃えた若者が十人以上集って

います。何卒よろしく御指導お引立ての程お願いします。
五月十七日
敬具

死亡日時

昭和四十八年六月十七日

一時四〇分

命矣夫。斯人也有斯疾也。痛恨至極のことである。

同君遊いて既に十年、アフリカのど真中、ザイル国にあるわがムンシ銅山の病院長には、ここ数代長崎医大熱帯医学教室から派遣を願っている。僻遠瘴癘の地で二万余の従業員とその家族が、不安なく生活できるのも、剣縁の余慶である。

この他剣道を通じて、多くの畏敬すべき師友を得て今日に至った。省みるに私の人生はことごとく剣縁の恵沢による。有難いことである。
剣縁機妙、剣縁無尽、剣縁無量。

註記 渡辺豊輔君略歴

劍歴 姫路高校、東大剣道選手、六段教士、九州医師大会優勝

医歴 昭和十七年東大医学部卒、応召軍医、東大病理学教室、滝野川病院、長崎医大、腸管病理学専門
コレラ研究で著名
主著「腸炎」(共著)

剣



財団法人神道大系編纂会
常務理事 大野健雄

「剣縁」

「剣縁」とは近頃の造語である。諸橋大辞典にもない。はじめ「ケンエン」と聞いて「ははあ犬猿の仲か」と思ったら正にその反対である。この造語の著作権者は、日本鉦業会長の佐々木陽信氏である。氏は人も知る往年の学生剣道界の重鎮で、小生にとっては中学高校大学を通じ二年上の先輩である。或る日会長室を訪れた処、さる剣道大会に頼まれたとか、墨痕淋漓

「剣縁」と大書した日本手拭を示された。早速頂戴したが、その時の弁に曰く、「禪にだけはしないで呉れよ、な」と。これは御本人に覚えがあるからで、私はちゃんと知っている。日本手拭とは長さも幅も頗るうまくだきていて、両角に紐を結べば直ちに越中と化し、ほどけばもとの手拭に還元し、銭湯で使っても誰も怪しまぬ。石鹸をつけて体を洗えば手拭諸共綺麗

になり改めて洗濯の要はない。往年の〇〇博士や〇〇範士の雄渾な筆致も屢々かかる運命と相成ったものである。どうかなと思わぬでもなかったが、緊禪一番と言うこともあり、要は高邁な精神の継承こそ大切なれと然るべく割切っていたものである。そのご記憶が半世紀以上を経てにわかには甦ったものと見たのは、筆者の僻目か。

閑話休題。佐々木兄の「剣縁」なる語の発明は、戦中戦後を通じて、剣道という摩訶不思議なる縁覚により、幾度か命懸けの艱難を克服し、財界政界官界と言わず至る所に知己を得て、人生を如何に稔りあるものにして来たかという感懐から思付かれたものと拝察する。近頃我が身を顧て、「剣縁」とは言い得て妙なる語なりとばかり、受け売りを承知で用いることがある。

私が剣道を習い始めたのは中学の一年即ち十二歳からであるから、今年で約六十年続いたことになる。他に六十年間やっていることがあるかと考えると、まあ、米の飯を食う位のものである。酒だつて好きな方だが、まさか十二歳から呑み続けてはいない。そんな訳で、剣縁に因る若い友人は、今なお、

殖え続けているのである。

剣道とは面白いものである。年齢職業の如何を問わず、何回か叩き合えば忽ち十年の知己の如くなってしまう。他のスポーツでは余りないことのようなのである。何故であらうか。一頃、若者との断絶をなくす為に肩叩き合いなどと云うことが流行したことがある。剣道は肩どころか頭を遠慮会釈なくぶん撲るのであるから、さもありませんと単純に考えたこともあった。しかしどうもそれだけではない。他のスポーツと異り剣道にはもつと切実な求道の心がある。求めるものは何か。「死生の哲学」であろう。竹刀打であつても常に真剣を想定し、死生に際会しても冷静に対処し得る覚悟の程を体得することである。

竹刀打でそんなことが期待出来るようか、と思う人もあろう。藤田東湖はその著「常陸帯」に於て、治まれる世となつて組太刀も形ばかりで刀槍の術も衰えたが、近年面小手胴と堅剛な竹刀の発明により心身を鍛え膽気を定めることを得て、士道も盛になったという趣旨を詳細に述べている件がある。由是觀之、維新回天の偉業の蔭に

は竹刀打により修得した剛健な精神があったと言えよう。

近年アルゼンチンと英国が、マルビナス島をめぐる戦ったことがある。その頃、日本鉱業の朝稽古に必ず姿を見せる礼儀正しいアルゼンチンの青年が居た。腕もなかなかである。或る日稽古後の挨拶の際、何か元気がない。訊けば「マルビナス島にわが一万余の軍隊がありながら、英国の砲火の前に昨夜降伏した。これは肉を斬らして骨を斬るという日本剣道の精神を知らないからである。私は帰ってこれを伝えたい」と答えるや、キラリと一瞬涙滴の光るのを見た。ああ、外国の青年にして剣道を解すること斯くの如し、本当の「剣縁」とはこの様な求道の心に在るのではないか。嘗つて占領軍はこの精神を畏怖し、剣道を厳禁した。占領下、有志が竹刀競技と稱してその温存を画したのはやむを得ぬ苦肉の策であった。しかし主権回復後ここに三十五年、なお占領の残滓があるとすれば、それを払拭するのに躊躇してはならぬ。所謂国際化とは、日本の精神文化の喪失を意味するものではないのである。



以上



昭和61年 年越稽古（旧制の先輩と）

これからの剣友会

—生涯剣道を目指して—



武蔵大学剣友会 会長 長谷川 勲

昭和三十五年の末に部に昇格してから、もう四十年になります。昭和四十五年からは女子も参加するようになり、現在部員は一九名（男子一三名、女子六名）、剣友会員は二四七名（男子一八五名、女子六一名）となっています。

この四十年間、いろいろなことがありました。四大学・東都大会で優勝し美酒に酔って良い想いをした年代、部員の数が少なくてと大会に出場した苦い想いをした年代など、その年代により皆さんの思いはまちまちであります。

しかし学生時代に剣道を通じて知り合えたこの縁が、今の剣友会のベースであり、社会に出てからも強い繋がりとなっていることは間違いありません。剣道を通じてできた縁（剣縁）を、今後も如何に永く保ちつづけていくか、これが剣友会の活動の原点ではないでしょうか。四十年の少しづつの積み重ねの結果が、今の剣友会の活動の姿であると思います。

第一に、剣道は機会があれば実際に竹刀を握って体を動かすことが必要です。この機会を増やすために、現役が休みのときも、毎週土曜日に大学で稽古会を開いています。上手い下手は関係ありません。気楽に剣道を楽しめばよいのです。卒業後も続けられ、五名の方が七段、九名の方が六段を取得されております。健康のため二十〜三十年ぶりに稽古を再開する方も、ぼつぼつ出てきました。それと合宿、夏は現役と合同で、秋は剣友会単独で行っています。土曜・日曜の一日二日ですが、終電を気にしないので、稽古を終わってからの一杯と剣道談義がたまらない魅力です。

地元の剣連（少年を指導しているところがたくさんあります。）に参加されるのもよいと思います。既に多くの方々活躍されています。地方での会員が増えて、そこに剣友会の支部ができ、相互での合同練習・合宿ができるようになれば、また楽しいではありませんか。

一年の稽古の締めくくり、その成果を試すのに、年末に行われる学連の試合に、竜王杯に二チーム、鳳凰杯に一チームが参加しております。稽古を続けていて腕を試したい方、ご遠慮なくお申し出下さい。

第二に、情報の提供があります。全会員に向けて、今の剣友会がどう活動しているかをお知らせするために、昨年四月・十月の年二回機関紙「わ」を発行しています。まだ四〜六頁のものですが、数多くの皆さんから寄稿していただければ、更に内容が充実したものになると思います。

大学剣道部当初の思い出



武蔵大学剣友会第二代会長 土屋 一徳（昭和三十九年卒）

卒業後、半世紀以上経っておりますので、記憶違いや自慢話があると思いますが、お許し下さい。

故長谷川勲先輩等から「旧錬心館で自分の寝具を持ち込んでやっていた合宿を外部でやりたいが、私の郷里沼津で便利で安く出来る所はないか。」と話がありました。

当時、故父（範士七段）は沼津市剣道連盟会長をしていたので相談したところ、沼津港の近くに林間学校があり、道場は父の母校道場を紹介してくれました。

しかし、相互間には、かなり距離があり路線バス利用なので大変でした。その旨、父に話したところ、三島市にある東洋レーヨン会社に剣道場があり、全国強豪高校から選手を集め実績のある師範の石垣先生（国士館大）が同市会長をされており、親交もあり、頼んでみたところ、快く了承して戴き、更に昼食は社員食堂も利用させてくれました。又、宿舎も徒歩可能な「如来寺」の本堂、食事場所は厨房でした。合宿の打ち上げ会も同場所でもやらせてもらいました。

卒業後、二代目会長就任時、父から三津水族館近くの小学校が、政府の「郷土創成事業」の一環で木造の広い体育館を造り、すぐ近くには、父の同級生が経営している旅館があり四、五十名位なら泊まれるとの事でお世話になりました。

その後、東京からの交通手段も良い為か、故関根日吉師範、警視庁から梯正治先生、西川清紀先生、竹内三郎先生、松森信秀先生、神奈川県警察から吉継干城先生、小山潤先生、更に旧制高OBの故打木城太郎先生も合宿に参加戴きました。

お陰様で、私は四回目の成人式も何事もなく過ぎ、五回目を目指しており、現在、横浜駅周辺とみなどみらい地区で活動している西区剣道連盟会長として頑張っております。コロナの影響で母校には行く事が出来ませんが、これからも「縁の下の力持ち」として微力ながらお役に立ちたいと思っております。

嶺岸:3年のときは三島だったね。
朝ご飯の後、昼ご飯の前、
昼ご飯の後と1日3回掛かり稽古
中心にやったんだけど、段々38度
39度と熱を出し倒れる人が出て
きてね。四年の郡山の方が楽だったかな。
郡山の合宿は、朝ご飯前のトレーニングと
午前、午後、夜と1日3回稽古をやってた
けど、少しは楽だったかな。



長谷川:そうでもなさそうだったよ。俺らが行ったら
お前さんが寄ってきて、これで少し休めます〜
っていったよな。何せ郡山の夜稽古は、
矢内先生初めすごい先生方がぞろぞろ出てきたからな。

司会:私は1年生で初心者。初めての合宿でしたから、辛かったですね…

長谷川:38年に関根先生が来られるようになって、特に嶺岸達の代に期待したようだったな。
その時の主将の小池に『嶺岸の時に優勝させるから、君達は捨て石になれ』と言ったそうだ。
当時、先生は警視庁の剣道指導室の教授をされていたから、時間が割合自由になって、
土曜日以外も顔を出してくれたんだ。

嶺岸:関根先生と目があったのに、稽古に行かなかっただけで、『お前は逃げるのか！』って怒られてね。
先生には、打っていかなきゃなんないと思うから、最初から掛かり稽古になっちゃって、本当に
きつかったな。我々が入部した時は新人戦のメンバーが組めなくて剣道の経験者を学内から
集めてきて試合をしていましたね。

長谷川:オーダーにも苦労したよ。その新人戦で嶺岸と手塚と緑川を先鋒から3人並べて出したら、
審判をやった早稲田OBの鈴木(オン)さんが、『今年の武蔵は凄いなと思ったけど、後ろの
方はぐちゃぐちゃだったなあ〜』って言ってたよ。

嶺岸:だけどあの頃はよく稽古したよなあ

司会:毎日稽古して、水曜日でも昼稽古でした。

長谷川:それに日曜日までやってたからな。

嶺岸:連絡して稽古を休むのはいいけど、無断で休むと翌日千本早素振りの罰則があつてね。
最初のこれをやったのは、同期の田中だったね。

司会:私も稽古サボって麻雀してたら、ばれちゃって千本早素振りやりましたよ。しかも、稽古終わって
からやるから、もうふらふらでしたね。初心者で、百本も振ったことないのにできるかよー
なんて思ってたなら、もうへろへろになって、気が遠くなる頃終わりましたね。

嶺岸:一年の時だったかな。小池先輩と稽古していたら、取っ組み合いになってね。小池さんを師範室
に押し倒して、上から押さえ込んだら『お前のは剣道じゃねー』って下から怒鳴ってたよ。
壁板にぶっつけられたり、ベランダから押し出されて、手すりの向こうに転がってみえなくなったり
なんていう稽古をしょっちゅうやってたなあ

*この後、年越し稽古を初めて行ったことや、道場でのコンパの後、靴が1足残っていたのに、
鍵を閉めて皆帰ったため、道場と便所の間で酔いつぶれていた水木先輩が締め出しを食らった
話など、昔話に花が咲き、時間を忘れて語りあいました。

昔を振り返って…

武蔵大学剣道部が50周年を迎えました。この機会に、昔の懐かしい思い出を対談形式で振り返っていただきました。

初回は、初めて四大学剣道大会を優勝したときのお話をお伺いしました。当時の様子を、長谷川兄(昭37卒)と嶺岸兄(昭42卒)に振り返っていただきました。

* 司会は松井兄(昭45卒)です。

司会: それでは、長谷川・嶺岸両先輩が揃われましたので、お話を始めさせて戴きます。
初めて嶺岸さんが四大戦で優勝されたのは昭和41年だったでしょうか。

長谷川: そう、41年だったな。

嶺岸: それから連覇したんですよね。

司会: 42年は天沼先輩が主将でしたね。

嶺岸: 私が3年の時は、準優勝だったな。主将だった渡部先輩が跳びあがって喜んでいたので覚えていますよ。準優勝なんだからそんなに喜ぶこともなかったと思うんだけどね。私は副主将だったんだけど、四年生は就職活動で全然出てこなかったから、殆ど我々で稽古していたね。

司会: そこは今と似ていますね。

嶺岸: 4年で四大優勝したその年は、東都リーグにも加入して初優勝したね。

司会: 華々しい時代でしたね。

長谷川: これがその時の優勝メンバーだよ。(右下写真参照)

彼の同期は14人いてね、半分は初心者だったね。

嶺岸: 1年生で14人入部して、卒業まで1人もやめなかったよ。四大戦の優勝にこの同期のサポートは大きかったなあ。

司会: ところで合宿のことで何か覚えていらっしゃいますか？

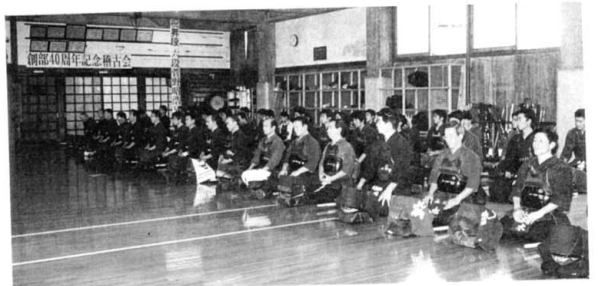
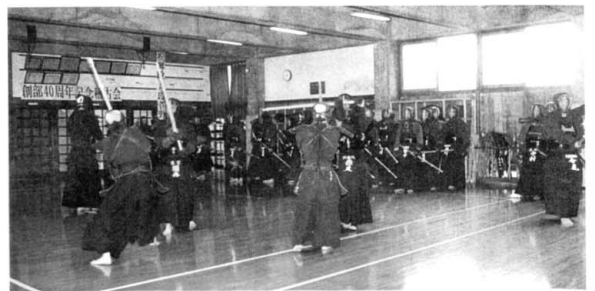




40周年記念稽古会



祝賀会の前の稽古会。連絡係は「何人参加されるだろうか」と心配してましたが、こんなに大勢の方々が集まりました。懐かしい顔を見つけて下さい。地方で剣道を続けておられる会員も、沢山いるのだから知りました。東京にいても殆ど出会うことの無かった先輩方も稽古ができました。六十一歳から十八歳までが集まって汗を流す。剣道を続けていて良かったと思ひ、「剣縁」という事に思いを寄せた稽古会でした。



第二部

剣道部創成期の 先輩方から後輩へ

「弥栄」のこと

昭和39年卒 岡田 行一

武蔵大学剣道部の歴史は、昭和34年に長谷川勲先輩（武蔵高校卒）が「同好会」を発足させ、36年に文連・体連との豊かな人脈により「部」に昇格させていただいたことから始まります。

私は35年に入学しましたが、剣道場（川上錬心館）に行ってみると、卓球台があつて中学生が遊んでいました。そのような状況を、同期で剣道の伝統校榛原高校卒の小池幸夫君が立ち直してくれました。剣道の所作から練習方法まで、長谷川先輩と小池君がいなかったら、武蔵大学剣道部が隆盛を見るのは、もつと時間がかかつていたかもしれません。

38年には景山二郎（旧制武蔵高卒）先輩が「三顧の礼」を以て、警視庁の助教をされていた関根日吉氏に師範をお願いし、剣道部長にも旧制武蔵高校の伊能敬教授が着任される等、部としての体制が整つてきました。

こうして整備され始めた剣道部に、旧制武蔵高のOBの皆さんが応援・激励稽古に来てくれたのです。

（敬称略）大野健雄・景山二郎・野中忠夫・武安義光・打木城太郎・荻生敬一・中谷林太郎・川上玄、錚々たるメンバーでした。

武蔵大学剣道部の歴史を語るとき、旧制武蔵高の皆さんの御恩を決して忘れてはなりません。そして、稽古が終わると師範室で車座になり、先輩方がいろいろな話をしてくれました。その時、「万歳と弥栄」の違いを話してくれたのです。「万歳」には一万年の歳月に栄えあれという、時間を考慮しての繋栄感がある。しかし「弥栄」は違う。万年等という単位ではなく「弥栄」には瞬時にも全力を尽くし、その努力の積み重ねによって永遠の繁栄を期するという精神的

な考え方である、等々。

「よしッ、これを武蔵の支柱にしよう！」とそれからのコンパの終わり等では、「ますます栄えあれ」と、弥栄を三唱するようになりました。

錬心館の歴史は古く、旧制武蔵高校の剣道場Ⅱ錬心館は、昭和2年に建立されたとの記録がありますから、今年（令和7年）で九十九年になります。およそ百年を有する武蔵大学の「錬心館剣道」のますますの繁栄を心より願っています。弥栄!!

四大学剣道大会初優勝

昭和41年卒 伊藤 巖

創部65周年おめでとうございます。

昭和41年10月29日、この日は武蔵大学剣道部が四大学剣道大会で初優勝した日です。

更に同年11月20日、この年の春から参加した東都十大学大会で同じく初優勝した年でもあります。自分達が4年生の時で、あの時の感動は今でも覚えていきます。

この快挙を遡る事3年半余り前の昭和38年、自分達が入部しました。同期は14名でした。この当時の武蔵は経済学部のみ単科大学で、学生数も少なく、剣道部も2年生以上を併せて13名で、自分が入部して一気に倍増となった訳です

この当時の剣道部長は伊能教授、師範は関根先生、監督は部創設者の長谷川先輩。この体制の下、四大学優勝を勝ち取るべく関根師範の厳しい指導が始まったのです。

師範の指導は剣の技の向上は当然ですが、それ以上に精神面を鍛

える事に重点が置かれていた気がします。具体的には勝ちに対する執念、相手に呑まれない気力、苦しいときに踏ん張れる力、これらを自分達に植えつける為に厳しくされたんだと思います。

更に旧制武蔵高校剣道部の先輩方や大学OBの方が足繁く通って頂いて剣の指導を頂いた事が頭書の快拳に繋がった事と思います。しかしただ厳しいだけでは無く、稽古終わりに皆で車座になり当時現役の要職に就いておられた師範や旧制、新制OBの方々との硬軟取り混ぜた人生の裏表の話聞くのが、当時情報量の少なかった自分達にとって新鮮な体験でした。

武蔵の良き伝統をこれからも引き継いでいって下さい。



日鉞 城山寮

昭和43年卒 水木 征二

日鉞城山寮は、旧制武蔵高校剣道部創成期OBの「佐々木陽信」先輩が社長、会長を務められた日本鉞業(株)の社員親睦施設です。都内一等地の乃木坂近く、料金は格安、雰囲気も料理もとても素敵のところでした。ここで年2〜3回、旧制武蔵高剣道部のOBの親睦会が開かれていました。

心優しい先輩方は、新制武蔵大学卒の我々の参加も認めてくださり、初代剣友会長の長谷川勲先輩を筆頭に数人が参加し、酒席を共にしました。

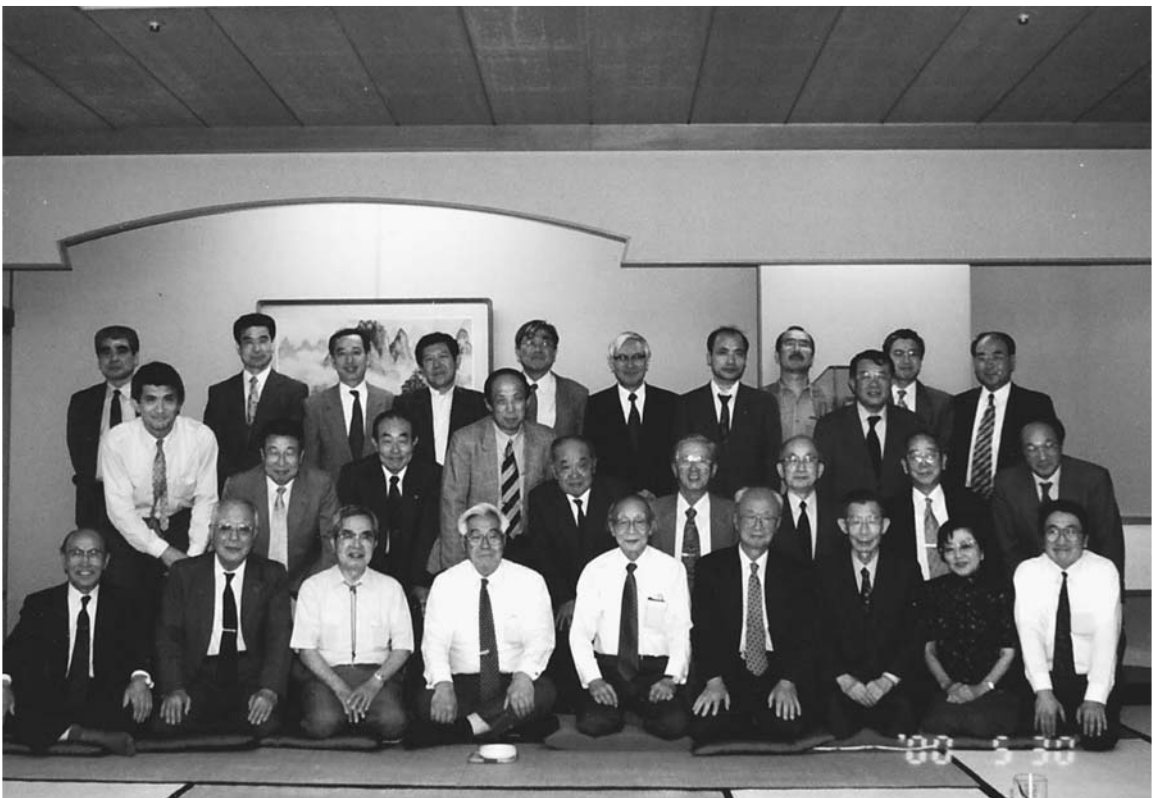
官界、法曹界、実業界等当時の日本のあらゆる社会でトップクラスの方々の形骸に接するとはまさにこの事との実感がありました。佐々木陽信先輩は、恰幅もよく勢いのある豪快な剣を使う方でした。酒席も陽気な話し上手な方でした。

剣友会の皆様おなじみの「剣縁」の言葉は、佐々木先輩の造語とされています。

今の世代まで、武蔵の最も愛されている言葉ではないでしょうか。先輩が他界されたのちも、さも当然と何も変わらず武高剣友会の会合はこの日鉞城山寮でした。

参加者は多岐にわたりますが、皆様にとっては全日本剣道連盟会長を務められた、景山二郎先輩、武安義光先輩がよくご存じの方だと思います。

そんな先輩の中で、私が一番記憶に残っているのが野中忠夫先輩です。法務省参事官を務められた温厚な方でした。剣道をこよなく愛され、毎週土曜日半ドン明けに道場に顔を出し、私たちと楽しそうに稽古、そのあとは正門前にあった「南国のオバちゃん」のとき



ろで一緒に剣道談義に花を咲かせて時を過ごしました。また、法務省にもよくおたずねし、私の仕事である債券投資にも顧客としてお付き合いをいただきました。

もう一人忘れてならないのが、川上玄先輩です。東大建築出、一級建築士としての理論派でした。また、玄建築事務所を新宿に構え、設計施工も手掛けていらつしやいました。縁あって私も杉並の自宅の設計、施工をお願いしました。

私たちの何よりも記憶に残るのは「旧錬心館」です。先輩の設計で建築、「川上錬心館」と呼び、武高、武大の剣道部員はみなここで汗を流したのです。

この写真は比較的新しいものです。中央に武安先輩が写っていますが、ほとんどが大学剣友会の面々です。確か「伊能先生」を偲んで武高の先輩方が開いてくださったと記憶しています。

伊能先生夫人の昌子様、師範の関根日吉先生のお顔も見えます。もちろん長谷川先輩はじめ、大勢の剣友会員の顔があり、懐かしいものです。

このようにして、大学剣道部は旧制武蔵高等学校剣道部OBの支えがあつてこそ、今があるのです。

以上、私の思いつくままをつづってみました。

関根日吉範士から受けた教え

昭和44年卒 紙谷 正之

■私の剣道人生の原点

昭和30年代、当時の剣道指導は「身体で覚える」ことが主流でした。しかし関根日吉範士は、私たち学生に対してこう語ってください

いました。

「君たちは剣道の専門家になるわけではない。剣道に自分の楽しみを見つけ、そして将来、地域の子どもたちに正しい基本を教えらるる剣道を身につけてほしい。」

この言葉は、私の剣道人生を方向づけた原点となっています。

■体調異変に気づき、支えてくださった先生

（大学に入学した最初の夏合宿）

稽古のたびに倒れる……というより私だけ「気絶してしまう」ような状態が続きました。それまで体験したことのない警視庁流の物凄く稽古量でした。異変に気づいた関根先生は、大学病院での検査を勧めてください、そこで心臓欠陥が見つかり、「剣道を続ける体ではない」と診断されました。家族からは当然のように退部を求められました。私は「退部した」と家族には伝えつつも見取り稽古を続けました。9月の診断から3ヶ月ほど経った12月、関根先生にこう聞かれました。

「お前は自分の体の異変がわかるのか。」

「倒れる前には兆しがあります」と答えると、

「じゃあ、その前に稽古を止める決断ができるか。」

「できます」と答えた私に、先生はこう言ってくれました。

「では、お前だけ特別に、自分の稽古スケジュールを作れ。」

キャプテンの嶺岸先輩にも話を通してください、私は特別な形で稽古を続けることを許されました。

この温かい配慮と信頼がなければ、今の私はありません。

■79歳になった今も剣道を続けられる幸運 継続力は宝

その後私は剣道を続け、七段まで取得し、地域の子どもたちや中学校の部活動の指導にも長年携わってきました。剣道は、生涯を通

して私を支える大きな柱となりました。これは間違いない、関根日吉範士との出会い、そしてあのときの深い理解と励ましのおかげです。

■先生の言葉「剣道は頭を使え」

関根先生は自分の頭を指さして度々こう言われていました。

「この頭は何のためについているんだ。しっかりと頭を使え。自分なりに工夫しろ。」

私は今、その言葉を子どもたちに伝えていきます。

■感謝の気持ち

充実した人生を感じつつ、本当に楽しい剣道人生を過ごすことができそうです。そのすべての出発点に、関根先生の教えと温かさがあります。心から、感謝・感謝の思いです。

日曜稽古

昭和44年卒 石井 経剛

六十年前、一般的な社会の休日は日曜日のみで、土曜日が午後の半日休暇であった。「半ドン」と云った。

当時、我々学生の授業や稽古も週六日であった。授業をサボっても稽古には出た。

その様な時、当時剣道部部长であった伊能先生から嶺岸主将に、日曜日、道場を旧制OBに開放しないかと示唆があった。しかし、開放するとはおかしな話で、道場は戦災で焼けたものを旧制OBが寄付を集めて再建したものであった。平屋建てで試合場一面がよう

やくとれる大きさであった。師範室、防具収納兼着替え室、外に付属して便所、シャワー室(勿論、水)が付いていた。

設計者はOBで、名をとって通称「川上錬心館」と云った。

中高校生、学生は使用させても貰ったが、旧制OBは来館機会をあまり作れなかった。そこで先生の日曜稽古の示唆であった。そこには、学生にOBと交流をさせようとの意図もあったであろう。日曜稽古は始まったが、学生の参加は自由意志であった。しかし、かわいそうに道場係と副のどちらかは強制された。

参加者は四、五十代のOBで、人は変わっても多くて五、六人、学生も同数位であったであろう。

参加して感じたのは、平日行われているとは別のものであるという事だった。

心身の鍛錬を目的とした段取りに従って、鍛える、鍛えられる稽古をしてきたが、先輩方は楽しんでた。

学生を相手にしても鍛えようとの気は感じられなかった。インターハイで全国制覇をした年代の方々であるからレベルは高かった。大野先輩は、どんどん間合いを詰めてくるので機を掴めず苦し紛れに打たされ、ひよいひよいと身を躲されては一本を取られた。逆に景山先輩は、こちらが先をとれたと思っても、後打ちをされて平然としていたので、一本頂いた思いを全くさせて貰えなかった。

打木先輩には、虚をつかれ、「これ剣道」と云われてしまう。野中先輩は、まだ剣の向上を目指しているのが感じられた。我々相手には禁じ手を設けていたらしい。間合いを非常に重くみて、詰めればどこ迄も退るが、機を捉えれば面一本。この雰囲気の中では、我々も稽古の指針は自ら自分で造らねばならなかった。

稽古後は、酒、主にビールを飲んでの座談会であった。酒好き先輩が多かったのも有り難かった。野中先輩は、ビールがまずくなるからと云って、先に出された茶には手を付けなかった。

仕事社会に於ける鎧を脱いで、先輩・後輩の会話であったので親近感が高まった。勿論どの様な話題であつても我々にとは知識・情報量とその咀嚼能力の差は歴然としてあつたから、拝聴するのみの方が多かつた。

頭も柔軟で、見解の押し付けや知つたか振りのこじ付けなどはしなかつた。

しかし、これ等の日曜稽古の意義は後付けで、参加の動機は別であつた。朝に誰かの下宿先に集まつて、今日は何をするかになつても、誰もデートをする相手も無く話は纏まらない。結局、「道場へでも行くか、酒も飲めるしな」と、アルコールに誘われての道場行きとなつた。これが実状だつた。

自慢話の一つ。多くの先輩は東大卒であつたが、それと比較して稽古は武蔵の方が面白いと云つていた。鼻を一寸高くしたが、これは他の上級生を指しての事だつたらう。だが、この様な環境に恵まれた我々は幸せであつた。

現在の事は知りませんが、形や構成する人は変わつても、雰囲気は同じ様に続いている事と思います。

創部65周年に寄せて

昭和48年卒 田中 伸和

我々は旧練心館で稽古した最後の代です。

一年時は、池畔に道場があり、今の体育館も更地でした。

強風が吹くと、土埃が入ってくる為、稽古中でも急いで戸を閉めました。そのお陰で雑巾掛けが大変でした。

日曜日は、旧制武蔵高校の先輩方が来られるので、上級生は自主

稽古で出てきました。終わると車座でビールを飲むのが楽しかつたです。水道が出なかつた時があり、越中陣のままの先輩のお供をして、外の井戸水で体を流したおおらかな時代でした。

先輩の縁で、東大、神奈川県警に出稽古に行つたことが嬉しかつたです。県警には何と護送車で送り迎えしていただき、稽古後も中華料理の御馳走で恐れ入りしました。そして全員、喉はまっ赤でした。

我々の代は、9名の内6人が初心者で、個性的な面々が揃つていました。特筆すべきは、女性第一期卒業生の矢倉女史がいたことです。途中入部でしたが小さい体で紅一点、激しい稽古に耐えて頑張つてくれました。

関根師範の不思議

一、準備運動も素振りも見たことがない。いきなり稽古。
二、片手突きが決まると、どう足掻いても喉から竹刀が離れない



関根先生の言葉

OBになってから、学生に対して「先輩を打てたからといって思いがつてはいけない。先輩は風格というものがある。」と擁護(?)して下さったこと。ニヤツと笑った顔が忘れられないです。

私自身は今でも地元の剣友会で稽古をしており、体力が落ちないよう筋トレ、ジョギングに毎日精を出しています。関根師範も晩年まで稽古をされていたので、見習って頑張りたいと思います。

武蔵大学剣道部杯高校生剣道錬成大会の歴史

昭和57年卒 赤尾 嘉一

平成25年に産声を上げた「武蔵大学剣道部杯高校生剣道錬成大会」は、今年で第11回を数えるに至りました。今大会では400名を超える高校生剣士が本学道場に集い、熱戦を繰り広げられました。

時計の針を巻き戻すと、大会開催の3年前、私は剣道部創部50周年記念事業の実行委員長を務めておりました。当時の現役部員は男女合わせて僅か12名でしたが、少数精鋭の現役生とOB剣友会が固く結束し、協力し合ったことで記念式典を盛大に執り行うことができました。この時に築かれた協力体制こそが、本大会の実行と継続を支える揺るぎない基盤となっています。

当時、紙谷剣友会会長(当時)とともに若手OBとの連携を図り、現役生からは3年生の川邊副主将(当時)をリーダーに抜擢しました。企画を練り上げる過程では、OBと現役が夜遅くまで議論を交わし、理想の大会像を追い求めた日々が懐かしく思い出されます。

第一回大会は個人戦としてのスタートでしたが、まさに「産みの苦しみ」の連続でした。参加校のリストアップや母校への勧誘、大学

側への趣旨説明、学生支援センターや同窓会への支援要請、さらにはパンフレット作成や会場設営、高校生向けのキャンパスツアーの実施など、山積する課題に実行委員会一丸となって向き合いました。現役とOBが心を一つにして作り上げたこの手作りの大会は、多くの関係者の皆様のご支援により、記念すべき第一歩を記すことができました。

この大会を通じて生まれた「剣縁」は、今や力強い循環を生んでいます。大会に参加してくれた高校生剣士が、後に本学剣道部へと入部し、今ではOBとして大会運営を支えてくれている実績は、まさに本大会が歩んできた歴史そのものです。

大会運営を通じて、現役生がマネジメントやリーダーシップを体得していく機会は、彼らの「ガクチカ」としても活かされています。今では剣道部員も増え、活気ある部へと進化を遂げ昨年の関東学生新人戦ではベスト16入りを果たし、今年は全日本出場を目指し強豪校との練習試合や精力的な稽古に励むなど、大会の存在が部の活性化に大きく寄与しています。

第一回より審判長を務めてくださっている西川清紀先生(警視庁剣道主席師範)をはじめ、大学関係者、現役部員、保護者の皆様、剣友会員、そして高校顧問の先生方に心より厚く御礼申し上げます。

この大会が今後も発展し、創部百周年へと続くさらなる「剣縁」と「弥栄」を紡いでいくことを切に願い、やがて武蔵大学剣道部の新たな伝統の奔流となることを信じて止みません。

第10回武蔵大学剣道部高校生錬成大会を観戦して

昭和44年卒 紙谷 正之

素晴らしい第10回記念大会を、感慨を持って観戦していました。この大会を始めた時の剣友会長としての思いは、何とかして剣道部の存続を図りたいという一念でした。年々部員獲得が難しくなり、それこそ暗雲立ち込める……の状況でした。数年にわたる総会での第一の懸案事項でしたが、今年練成大会ができなければ次の議題には上がらないという中で、とにかく実行に移そうと決議しました。若手OB OGと現役剣道部員の熱意ある取り組みで開催にこぎつけました。

第1回の開催は【どれだけ魅力ある大会にできるか?】が次に繋がる決め手であることは明白でした。この時、素晴らしい力を發揮してくれたのが、OB OG諸氏と現役剣道部員による出身高校への働きかけ、そして地元剣道会を通じた各高校への働きかけでした。当時の高校剣道界の強豪校が次々に参加を表明してくれたのは、まさに彼らの努力の賜物でした。インターハイ常連校の高輪高校（H29年卒鈴木弘二郎・当時2年生）を始めとする都内強豪校のほかに、埼玉栄高校（中野S57年卒勤務先）、千葉県安房高校（現会長菅田S61年卒・剣道部顧問）、神奈川県桐光学園（H27年卒川邊・当時主将）等が参加したことは、高校生錬成大会への注目度を一気に高めてくれました。更に、大切な審判長を務めてくださったのが警視庁西川清紀主席師範であり、そのお力添えが高校剣道界に浸透し、今回の第10回記念大会へ繋がる大きな出発点であったと思います。今回の大会を観戦し、これまでの、特にコロナ禍の厳しい環境をも乗り越え第10回大会に繋がったOB OG諸氏と現役部員が、どれほど頑張って大会を引っ張ってきたかということ強く感じました。

企画から当日の大会内容と運営、そして大会後の参加各校への配慮ある御礼と報告のそれぞれを聞くにつけ、年代を超えた熱意の継承を関係各位と共に皆で称えたいものだと思います。

武蔵大学剣道部の益々の弥栄と、高校生錬成大会のさらなる継続を祈念します。

第10回武蔵大学剣道部杯高校生剣道大会を見に行った感想

昭和39年卒 日暮 道生

競技内容は別の人に譲るとして、受けた印象を報告したい。

去る2月23日江古田キャンパス体育館で開催された高校生剣道錬成大会を観戦した。

きっかけは、新年早々に剣友会LINEで3月に予定している錬成大会の運営資金が足りなく寄付金を募るということで協力をしたが、いつの間にか10回にもなったこと、どのように運営されているのか確認したいと思い、出かけた。

当日は快晴だが底冷えする寒い日だったが、大学構内に入ると数多くの高等学校名が記されているマイクロバスが駐車していて驚いた。

大学剣道部が主催しているもので剣友会（OB会）は、学生支援センター・剣道部部父母会と共に後援「実態は共催」協力した。

第1回は平成25年2月に開催し、目的は将来の部員獲得の一助になればとの狙いで認知度アップの為に東京近郊の高等学校剣道部・指導の先生方に案内した。

参加人数は男子123名女子79名だった。

コロナ時期は開けなかったが、今年は記念すべき第10回目を迎え

た。

参加校…男子36校55チーム、女子31校31チーム、男子選手344名、女子187名、教員、保護者、見学者、を含めると600人以上の来場者があり一大イベントに成長した。実際広い体育館も4面のコートを取り周囲を選手控え場にしたが、3階ギャラリーも含めて立錐の余地なく人々で埋まっていた。過去参加した者で入学し入部したものが出てきていて、来年の受験希望者もいるようだ。

主催が剣道部ということは、部員にとっては、企画から実行計画に至るまで武蔵3理想の『自調自考』の実践として招聘・プログラム製作・案内・接待・時計係・掲示係を実践し、OB会は実行委員会アドバイザー・審判員・運営資金の補助等を担った。

審判長には警視庁 主席剣道師範・全日本剣道大会3度優勝の西川清紀先生を迎え、副審判長は関根剛（昭和50年卒・教師8段）氏にお願いした。先生は第1回から連続してその任に当たって下さっている。限られた資金内で、プログラムも



ゼミの武蔵らしいレイアウトで実行委員長の挨拶文も参加校の先生・学生に大学生活の成果報告のように映ったと思う。

剣友会は今では年齢的に不可能になってしまったが、旧制の剣道部の先輩方との交流は密で道場・合宿に稽古に来てくれ我々もOBも先輩方の稽古会に参加したり懇親会に招かりしたりして交わりは深く厚く培っていった。この剣縁は剣友会から現役へと繋がっていくものと思う。

剣道という枠組みの中であるがオープンキャンパス的イベントであった。

大学構内は剣道着姿の選手たちが試合前のアップに励んだり、散策したりしていた。

すれ違う我々に対して大きな声で挨拶をしてくれたし、体育館入り口では整然と履物が並んでいて剣道をする者の礼節礼儀が各高校行き届いていたのはさすがで好感が持てた。

最後迄居られなかったが気分高揚・爽快のうちに帰宅した。

令和7年2月23日（日）

第10回記念武蔵大学剣道部杯高校生剣道錬成大会 審判長講評

西川清紀先生

剣道は、「試合で相手に勝つことは大変難しい」といわれているなかで、今日は優勝、また入賞されたチームの皆さん、本当におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。今日は1回戦から決勝戦まで、ほとんどの試合を拝見させていただきました。着装よし、構えよし、試合内容よし。第10回大会にふさわしい素晴らしい

大会だったと思っております。今日はせっかくですから、一点だけお話をさせていただきます。

皆さん、今日は試合でたくさん技を出して打っていましたが、一本になる技は少なかつたように感じました。有効打突、一本になる条件ですね。ただ当てただけでは一本にはならないというのが剣道の試合なのです。充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打ち、そして残心。それにプラス間合い、機会、体捌き、手の内の作用、さらに強さと冴え。審判の先生方が一瞬で打った技をパツと旗を上げ判定されるのは、そのような条件が整っているからなのです。旗が上がらないということは、打ちが弱かつたり、体勢が崩れていたり、残心をとらなかつたり。審判の先生方は、それらを一瞬で見分けているのです。審判の先生方はとても勉強され、審判技術を身に付けているのです。そういう先生方が、打った瞬間にパツと旗を上げられるような打ちを、これから心がけてもらいたいと思います。

そのためには先ほど言った、間合い、機会、そのあとの手の内の作用と打突の強さ。これは、道場で稽古をしても簡単に身に付くものではありません。自分の問題であつて、自分で時間を作って、一日に20分くらいでも良いので時間を作って素振りをするのです。素振りの仕方は、道場の先生に正しい素振りの仕方を聞いてください



い。竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打ち一本にするためには、手の握り方、特に左手の握り方が悪いと竹刀の先に力が入らないのです。親指、人差し指を握りしめて強く打つと、手元に力が入るのです。竹刀の先には力が入らない。ところが、小指と薬指をしつかりと握って正しい握り方をして両手で打つと竹刀の先に力が入る。ですから当たった時に音がして、強い打ちができるのです。それを、うまく自分で身に付けると、男性も女性も関係なく、打った瞬間に強い打ちができるのです。先ほど言ったように、自分で時間を作って、20分もあれば300本くらい素振りができますから、毎日300本ずつそれをやるのです。そうすると、半年素振りをやった人の打ちは、必ず一本になるようになります。十本打って一本の有効打突しか取れない人は大変です。ところが一本打って一本の有効打突をとると、二本打てば二本勝ちになる。そういうことを心がけて自分で努力をして、素振りをして打突の強さを身に付けてください。よろしく願います。

剣道は、道場だけでやってもなかなか上手になりません。強くなりません。後は自分の「一生懸命やる」という積み重ねなのです。今日も一生懸命、明日も一生懸命、明後日も一生懸命。それを続けてやるのが「努力」という言葉として返ってくると思います。どうか努力をして、しっかりと頑張つて、それが身につけて素晴らしい剣道ができるように頑張ってください。

みなさんが、道場で教えていただいている先生方の教えをよく聞いて、これからのいろいろな面で活躍されますことを祈念いたしまして、講評に代えさせていただきます。

大学讃歌

一、朝霧深き 武蔵野の

かすむ木立ちの翠^{あざ}くして

におう大地に せせらぎの

清新の音を かなずとき

われらもとめん その希望

武蔵武蔵 おお武蔵

二、四季めぐりゆく 武蔵野の

舞うわくらばの夢に似て

けふる余燼^{よじん}に ふみびとの

なお栄光を つとうとき

われらもとめん その理想

武蔵武蔵 おお武蔵

三、いま鐘はなる 武蔵野の

丘陵^{おおか}にあしたの 風みちて

ながるる雲に 白雉^{しらけ}の

九天^{くわんてん}におもい はせるとき

われらもとめん その力

武蔵武蔵 おお武蔵

雑誌「武蔵評論」に
寄稿された大学讃歌に
刺激された斎藤忠三氏
が作詞。その後、作曲
の守住佐一郎氏の眼に
とまったのが縁で、美
しい五線譜が組みこま
れ、大学2回卒業生の
謝恩会で発表、愛唱歌
となった。

西 征 行

一、熱情の怒濤意気の潮 高なる胸のどよめきや
若き心のやみ難く 湧きて溢るる泉かな
嗚呼感激のいとなみの 幾年夏はめぐり来ぬ

二、濯川のほとり草ずれに こしかた徳ぶ涙かな
秩父嵐の荒れ狂ふ 霜おく朝の精進や
秋また冬と過ぎ行きし 彼の日の努力面に見よ

三、若草萌ゆる春なれば 思いは遠し西の空
不断の誓「優勝」の 理想の炎燃えさかる
胸に脾肉を歎じては 澎湃おこる血ならずや

四、勝利の熟睡光栄の歌 時は来れり戦はん
今日の門出ぞ蒼空はるる 錬心の太刀征くところ
三六の峰々に 凱歌とどろかせ十劍士
凱歌とどろかせ十劍士

「西征行」は武蔵高校剣道部が、昭和七年夏初めて京大主催の高専大会出場のため京都遠征を行うに当り作られた歌である。作詞は、当時の主将佐々木陽信氏の同級であった上田浩一氏が行い、同じく浜口大六氏（作曲家浜口庫之助氏の実兄）が作曲した。

剣道ワルツ

♪ 月は朧に 早朝稽古
竹刀持つ手に 風が吹
出るんじやなかった 朝練なんて
これが修行の はじめでしょうか

♪ 今日の稽古はOBがずらり
片手半面 諸手突き
くるんじやなかった 合宿なんて
これが修行の はじめでしょうか

♪ 可愛いあの子の 笑顔が浮かぶ
すきは許さぬ 猛稽古
やるんじやなかった 剣道なんて
これが修行の はじめでしょうか

♪ お籠手 面打ち 飛び散る汗に
乾く間もない 剣道着
来るんじやなかった 合宿なんて
これが修行の はじめでしょうか

♪ 空には三日月 道場帰り
恋は許さぬ 猛稽古
やるんじやなかった 剣道なんて
これが修行の はじめでしょうか

武蔵大学剣道小唄

1、酒は飲んでも 飲まれちゃならぬ

それが男というものさ

明日は他人の あの花のために

一人しみじみ 飲んでやろう

2、花のあの娘は けがれを知らぬ

俺がいたでは かどが立つ

みれん心は さらさらないが

なぜか心に とげが刺す

3、面にしようか お小手にしようか

お突き半面 返し胴

きりりとしめたる 黒胴姿

あの娘にみせたや 晴れ姿

4、面と小手との 火花の中で

燃ゆる男の 心意気

ぐっとにらんで 上段とれば

天下宇宙は 俺のもの

5、今日も鳴る鳴る 武蔵の大鼓

ひびけ日本の 果てまでも

はげみいそしみ 剣道のために

俺は武蔵の 剣道部

惜別の賦

一、花は吹雪と散り行きて

若き日の夢消えん時

多感の男子などか今

花の宴の無からずや

二、夕暮れゆく武蔵野の

緑の丘に 餞の

尽きぬまどろの友よいざ

歌はんかなや青春賦

四、今宵の宴、感激の

篝に映ゆる 顔や

あゝいつの日か我等又

花の集ひに見るを得ん

五、されば我が友たゆみなき

時の歩みは移るとも

忘るるなかれ攢林の

美はしかりし起き臥しを

六、今絢爛の花 香る

すゝきのほとり紅の

春七年の夢さめて

淋しや野面月静か

第三部

平成23年～令和8年卒業生

4年間の思い出

剣道部への想い

平成23年卒 中村 亮太

卒業してから十年以上経ちますが、剣道は仕事と家庭の合間で細々と続けております。大学時代を思い返すと剣道面はもちろん生活面（主に遊び）も色々な先輩側に変えてお世話になったと思います。微力ながらではありますが、この御恩を今の学生たちに還元し、剣道部の活動に少しでも貢献できればと考えております。

宮本 泰嵩

大学卒業してから苦節四年をかけて東京都の教員となり十一年目を迎えました。初任校では剣道部がなく、剣道に関わることはないのかなと思ったりもしましたが、やはり剣道に携わりたいという思いから二校目から剣道部に関われるようになりました。今は高体連の役員として東京都の剣道に関わる仕事もしています。今の現役の剣道部員を見ると、教員として大会等で見てきた生徒たちが後輩として活躍してくれるのを嬉しく思いながらOBとして陰ながら支援できればと思っています。

工藤 令枝

私は卒業後、温かい家庭を持つという夢が叶い、慌ただしい毎日ですが楽しく過ごしております。剣道に関わる余裕はありませんでしたが、剣道部で出会った皆様とは、直接会えなくてもSNSや年賀状等つながり続けられることに心から感謝しております。自分から連絡することができていなかったのですが、卒業して十年以上

たった今でも変わらず当時の様に気にかけていただけることに心温まります。この変わらぬ絆を何よりも大切にしていきたいです。今後はこのご縁に感謝しながら微力ながら力になれたら幸いです。



私の過ごした4年間

平成24年卒 加部 雄平

今思うと私が過ごした武蔵大学剣道部での4年間は、一つの転換期だったかもしれません。私が1年生の時、4年生は中島先輩はじめ男性5名が在籍するも、3年生は石川先輩、上野先輩の男女1名ずつ、2年生は中村先輩、宮本先輩、工藤先輩の男性2名、女性1名という少人数でした。かくいう私の代は、男性は私だけ、女性は4名と部員数が非常に少ない状況でした。4年生の先輩方が卒業

した際、男性4名だけで稽古した時は試合に出られるのか不安に思ったことを懐かしく思い出します。

たまたま私の1学年下の代で、高橋輝元主将はじめ強い男性部員が6名入部。2学年下は佐々木元主将、倉林元女子主将の男女1名、3学年下は川邊元主将、本島元女子主将はじめ男性3名、女性5名。4年間通して男女共に公式戦出場時に欠員が出ない状況でしたが、試合に出られるぎりぎりの部員数で活動していました。このままでは部員数が尻すばみになる恐れがあり、私の卒業後に武蔵大学剣道部杯高校生剣道錬成大会を主催するに至り、現在の部員数の確保に繋がっています。

指導陣も、大学2年時には酒井師範から笹岡師範に、卒業後すぐに野村監督から戸賀崎監督に変わっており、今の武蔵大学剣道部の体制に繋がる転換期の世代だったのかなと感じています。

一方で、今の武蔵大学剣道部の和気あいあいとした雰囲気は当時と変わらないものがあります。今の現役学生は私の学生時代より更に実力がありますが、稽古前の明るい雰囲気から一転し、稽古になると真剣です。私が学生の時も稽古前後はリラックスした雰囲気、稽古になると切り替えて集中していたと記憶しております。剣道部で学んだオンオフの切り替えは、その後の社会人生活でも大いに役立っています。当時は長谷川先輩はじめ多くのOBの先輩方が稽古に来て下さり、お酒の席も勉強することができました

大学から始めた剣道

平成24年卒 川上 舞(旧姓:野沢)

剣道とは無縁だった。武蔵に入学し、友人が初心者で剣道部に入部したと聞き、自分も何か新しいことを始めたいと思ったのが入部のきっかけだった。でもそこからは後悔の連続だった。特に夏合宿の太鼓が鳴り終わるまでの切り返し、止めがかかるまでの掛かり稽古や先輩方との上下関係など。剣道は中々好きになれなかった。初心者の彼女が辞めてしまったこともあり、自分も早く辞めたかった。4年生だった柳瀬先輩に、部活帰りの高崎線の中で「剣道部辞めたんです。」と弱音を吐いた。柳瀬先輩は「今は辛いかもしれないけど、引退する時には続けてきてきつとよかったと思うから頑張ってみたら？」と言ってくれた。そのうち先輩が入ってきて、いつの間にか4年生になっていた。引退を迎えた日、あの時の柳瀬先輩の言葉は本当だったのだと思えた。だから、自分と同じように初心者で入部してきた後輩にも「4年間頑張ってみて」と、堂々と言えたのだと思う。

同じ剣道初心者の藤元先輩からは、団体戦での役割を教わった。「初心者なんだから勝とうと思わないで引き分けて終わらせる。」でも結局いつも自分で負けてしまっただけで悔しい思いを何度もした。だから引退試合を兼ねた最後の四大戦で、お世話になった先輩方の前で勝てて褒めてもらった時は本当に嬉しかった。

OBの方々のご支援のおかげで防具購入の負担なく剣道を始められたこと、大変感謝しております。また、初心者にも関わらず早く入部を受け入れてくださった先生や先輩同期後輩の皆さん、ありがとうございました。主務として至らないところばかりでしたが、宮本先輩には細かく指導してもらいました。ありがとうございました。

剣道を好きになれてよかった

平成25年卒 高橋 輝

私たちの代は皆、大学で剣道を頑張りたいというわけではなかった。学業を優先したい者、挫折した者、スポーツ推薦を断った者、楽しく剣道をした者など、様々な思いを持った者が、偶然集まった。最初に剣道部に入部したのは私、田中、今井、近澤、保澤の5名。知久は2年生の新人戦の頃入部をした。入部当初、2〜4年の男子の先輩方は4名と少なかったが、剣道に対して真摯に取り組む姿を見て、この人たちと剣道がしたい、そして共に上を目指したいと思うようになり、自分たちで試行錯誤し稽古に取り組む楽しさを感じながら、剣道に対する熱を皆取り戻していった。四年時には、「俺たちがやってやろう」という気持ちにまでなっていた。

部活以外の時間は、授業がなければみんなで部屋に集まって遊び、部活が終わったら誰かの家で遊び、誰かがバイトをしていればバイト先まで行き、みんなで一緒にくだらない事ばかりして、ほぼ毎日一緒に過ごしていた。そんな中でも学業優秀者で奨学金を貰う者、ゼミ大会で優勝する者、資格をとる者など、部活以外にも各々が様々なことに取り組む真面目さも持っていた。

戦績は、インカレ出場、明鏡杯優勝、四大戦優勝までは、あと一歩届かずに終わってしまった。一人ひとりが活躍し、輝いた試合があったが、結果としてはどの大会もあと一歩。あの時こうしていれば、何かもつとできたことがあったのではないか。そんな気持ちを持ちながら大学の剣道生活は終わった。だが、この気持ちがあったからこそ、今では仕事に対しても、剣道に対しても、真剣に向き合っている、取り組むことができています。そして、同じ気持ちを味わった者同士だからこそ、今でも互いに尊重し合うことができています。

素晴らしい 出会い

平成26年卒 高橋 舞(旧姓：倉林)

私にとって武蔵大学は第一志望校ではなかったが、志望校に落ちて武蔵大学に入学したことは、私の人生において必要不可欠な通過点だったと言える。

私は、剣道の最も素晴らしい点は「出会い」であると考えている。武蔵大学剣道部は私に、数多くの出会いをもたらしてくれた。師範をはじめ諸先生方には、在学中だけでなく、四段合格に向けて卒業後も稽古をつけていただくなど、本当にお世話になった。次に、監督を含めOBの先輩方。武蔵はOBとの繋がりが深く、本当に幅広い年代の先輩方と交流することができた。また1〜3学年上の先輩方。4年生は神様……ということはなく、いつも気さくに(時に厳しく)接してくださって、本当に素晴らしい先輩方に恵まれていたと感じる。そして、後輩達は頼りない私についてきてくれて、なんだかんだ可愛かった(最後の大会の日にももらった手紙はまだ残っているよ。)

実は、強豪校出身の先輩方と後輩達に挟まれて、部を辞めようかと思悩んだ時期もあり、同期が男子1人で誰にも相談できず、当時私は、なぜか柔道部の先輩に相談した。返ってきたアドバイスは私の求めていたものとは全く違うドライなものだったが、あの時に辞めなくて本当に良かった。

現在私は母校で勤務しており、ひとつ上の先輩と一緒に剣道部を指導しているが、卒業後母校に戻った時、「4年間で何があったんだ」と驚かれた。武蔵での具体的なエピソードを挙げると言われても、あの時一本取れたとか、ほんの小さな想いで(けれど私には人生の中で本当に大きな一本)、輝かしい戦績は全くない。でも、他者か

ら見ても分かるほど、4年間を通して、剣道だけでなく人として大きく成長できたと思っている。これは、武蔵大学剣道部での数多くのかけがえのない「出会い」があったからである。
私は、これからもこの「出会い」を大切にしていきたい。

挑戦と感謝

平成27年卒 川邊 翔

創部六十五周年、心よりお祝い申し上げます。私たち平成二十七年卒業は男子三名、女子五名。上下の代も人数が少なく、いわば「少数精鋭」の世代での同期八名体制でした。個性豊かな女子の色が強い代と言われますが、四大戦個人優勝をはじめ結果にもこだわり抜き、誇りを持って戦い抜いた学年だったと自負しています。

中でも忘れられないのは、部員減少により部の存続が揺らいだ時期、赤尾嘉一剣友会副会長をはじめ多くの方々と真剣に協議し、第一回高校生大会を開催したことです。あの時、剣道部で受け継いだ作法や心構えを「外」へ向けて示す機会を得たことで、武蔵の剣道がどれほど価値あるものかを改めて実感しました。大会を終えた後の達成感は、今でも胸に残り続けています。

私たちは剣道に励みながらも、長期留学、ゼミ活動、アルバイト、恋愛や失恋に至るまで、全員が大学生活を本気で生きました。振り返れば、剣道は確かに日々の中心でしたが、同時に大学生活を豊かにする大切な「軸」でもありました。その軸があったからこそ、四年間を全力で駆け抜けられたのだと思います。

現役の皆様へ。部活動で得られるものは、勝敗だけではありません。ともに汗を流し、悩み、励まし合った仲間、社会に出てからも心の支えとなる「生涯の宝」になります。どうか限られた時間を惜しまず、何事にも情熱を注いでください。その経験は必ずあなたを強くします。

そして十年後、二十年后、同期や先生・先輩方と杯を交わす時が来たとき、きつと胸の奥が熱くなるはず。「あの仲間と、あの日々があつて良かった」と。

4年間の思い出

平成28年卒 野村 竜生

現役世代はピンとこないと思いますが、2011年3月に東日本大震災を経験し、その翌年に入学した年代、つまりは剣道界の世代で言えば竹ノ内世代です。部員数は少ないですが、私達は原辰吉という男を中心にまとまった年代であったと記憶しております。諸先



輩方と過ごした大学時代の思い出は、学内や稽古よりも居酒屋での戯れが多かったように思いますが、それも今思えば、適度な上下関係のある武蔵の良さだったと感じています。

大会等の成績では全く現役部員たちの成績には敵いませんが、私達が1年時には先輩方のお力で、四大戦団体で勝数差2位、3年時には関東学生では4回戦全日本出場決定戦(明治大学)、敗者復活戦(専修大学)というのが最高成績ではないでしょうか。女子では明鏡杯で宮下が優秀選手賞をもらっていたことを覚えていますが。その他個人でも入賞歴などあると思いますが、大会後の打ち上げで良くも悪くも、記憶はどこかの居酒屋に置いてきてしまいました。

大学のプロモーションとして1学年上の先輩方から、武蔵大学剣道部杯を企画してくださり、入部者が増加したこともよく覚えています。私達は第2回大会実行委員として運営に携わり、その場凌ぎになってしまふ点もありましたが、心強い諸先輩方のおかげで問題なく大会を実施することができました。大会が引き継がれ、参加校のレベルも高いレベルになっていることも現役部員や諸先輩方のおかげだと思っています。ありがとうございます。

全く連絡を取り合わない同期の私達ですが、何もないというのも何所かで必死に頑張っている証拠なのだと思えます。私も教員という仕事をしていなければ、諸先輩と連絡を取る機会もなかったように思えます。写真は何も残っておりませんが、思い出はそれぞれの記憶の中に今も残っていると思います。

学びの4年間

平成29年卒 鈴木弘二郎

入学した当初、剣道部に入るかどうかはまだ決めていなかったと思います。部活見学で先輩方と話すうちに、雰囲気が良い、ここなら楽しく厳しく4年間を過ごせそうだと感じ、入部を決めました。同学年にも面白い同期ができ、心強かったのを覚えています。

大学では、授業、部活、そしてアルバイトと、今思えばぞっとするほど体力を使う毎日を送っていました。剣道部での活動は稽古だけでなく、稽古後の楽しいレックス(飲み会)からも多くのことを学びました。一方で、稽古の場では皆さんが真剣そのもので、その切り替えの大切さも教わりました。笹岡師範、野村監督、岡崎先生をはじめ、多くの先生方やOBの方々、先輩方にご指導頂きました。2年生以降は後輩にも恵まれ、部は高校生大会の開催をきっかけに大きく変わっていきました。特に2つ下の代からは強豪校ですと剣道を頑張ってきた経験者も増え、部の雰囲気はより引き締まったものになったと思います。

しかし私は、自分の不甲斐なさから試合に勝てず、後輩や部に対して申し訳なさを感じることもありました。今振り返ると、技術云々の前に、間合いの中でもう一步中に入る勇氣と気構えが足りなかったのだと思います。

4年生の時、就職活動と重なる大変で大事な時期に、武蔵大学で四大戦が開催されました。大会準備と運営は主に主務の同期が中心となって進めてくれ、無事大会を終了する事が出来たのを覚えております。その同期にも感謝と敬意を表したいと思えます。

自分の精神的、そして肉体的な弱さ、またこれは剣道に限ったことではありませんが自分の未熟さも感じた、勉強になった4年間

だったと思います。また振り返れば、私が在籍中に残念ながら退部をされた方も数名いらっしゃったり、苦しいけど楽しかった夏合宿もあったりと、喜怒哀楽があった四年間でもあったと思います。多くの先生方、先輩、後輩と同期に支えられ、学ばせて頂いたことに心から感謝しています。



武蔵大学剣道部の転換期と主将像

平成30年卒 麻生 周馬

私が入部した当初（平成26年）は人数も各代数人で、小規模の部活動でした。先輩方は皆しっかりしており、若輩者の私をしっかり公私ともに支えていただきました。通常の部活動に加え、自主練習にたくさん付き合っていたいただいた先輩もいらっしゃいます。しか

し、私が2年次になると、特別AO入試枠で入学、入部する部員が増えていきました。私は部員が増えるという嬉しさの反面、不安に駆られることが多くなりました。入部してくる後輩は皆、実績もあり、それに伴った実力もある者ばかりで、果たして最上級生になった時にこの後輩たちを自分が引っ張っていけるのかという気持ちが増してきました。そんな時に支えてくれたのは同期やOBの先輩方ももちろん、その後輩たちから支えていただきました。後輩たちから普段の部活動を盛り上げてくれ、自分が心配していたことが小さいことに思え、いつかはそんな不安も無くなっていきました。もちろん、同期が私を含め2人しかいないというのは心細いところもありましたが、後輩たちが本当によく剣道部を想ってくれていたと今になってよく思い出します。思い出はたくさんありますが、一番の思い出は1年次の夏の合宿です。この合宿は千葉県山武市で行われましたが当時の主将が熱中症になってしまいました。この時、主将は熱中症になったにも関わらず、ご自身のできる限りのことを、ということ、練習内容の指示や太鼓係をしていたとき、剣道部に懸ける思いを行動で表現されていたと思います。また、この姿に相應るように部員も厳しい練習メニューに必死に取り組みました。その主将が卒業されてからも、さらに今でもこの姿を思い出し、自分の稽古や仕事のモチベーションになっております。今後も武蔵大学剣道部の発展と活躍を祈念して筆を置かせていただきます。

剣と共に

令和元年卒 高橋 耕陽

武蔵大学剣道部創部六十五周年、誠におめでとうございませう。スポーツ推薦第一期生として、当時の記憶を振り返ります。

佐藤先輩や野村前監督のご尽力により、武蔵大学剣道部の門を叩く好機を得られたことは、私の人生における稀有な転換点となりました。

主将として当時は至らぬ点も多く、望んだ結果でのご恩返しは叶いませんでしたが、武蔵大学で得た知見は、今や社会人としての礎です。切磋琢磨し、今なお親交の深い学友たちと共有した濃密な時間は、何物にも代えがたい私の至宝であると断言できます。

その中でも特筆すべきは、三年時、関東学生大会での国士館大学戦です。「勝利」という二文字を真実掴み取るため、我々は自己の限界を規定せず、心技体の全てを賭した修練に励みました。敗北の刹那、不覚にも頬を伝った涙は、全霊を傾注した者のみが味わう、痛切かつ崇高な自己証明であったと考えます。この部で培った不屈の精神を胸に、今後も精進を重ねます。

なかなか大学に顔を出すことができずに申し訳ございませうが、母校武蔵大学剣道部の更なる飛躍を心より祈念いたします。



入学時集合写真



2018年夏合宿



卒業時集合写真



2019年卒業式

(私の同期には退部者がおらず入学時と卒業時が同じ顔ぶれになります。当時の入学時と卒業時の写真を添付させていただきます。)

勝敗を越えて得たもの

令和2年卒 鈴木 拓海

私たちの代は、入学当初から「全日本学生剣道優勝大会ベスト16」を明確な目標として掲げ、日々の練習に取り組んできました。結果として、四大戦では2位、明鏡杯では初優勝という成績を収めることができましたが、関東学生大会では2回戦、3回戦の壁を越える事ができず、敗者復活戦に進んだものの、最後まで勝ち切ることはできませんでした。そのため、在学中に一度も全日本学生大会の舞台に立つことができなかったことは、主将として、そして一選手として大きな悔いとして残っています。

しかし一方で、私たちの代は大会成績だけでは測れない価値を築いてきたとも感じています。学年や立場を越えて意見を交わし合



四大戦 準優勝



同期と道場で



明鏡杯 初優勝



明鏡杯 準優勝

い、互いを尊重し合いながら、組織としての結束力を高めてきました。決して順風満帆な道のりではありませんでしたが、苦しい時こそ前を向き、仲間を信じて挑み続けた経験は、何にも代えがたい財産です。

勝利に届かなかった悔しさも、思うように結果が出なかった時間も、すべてが今の自分たちを形作っています。そして何より、どの大学にも負けないほど楽しく、真剣に剣道と向き合えたチームであったと胸を張って言えます。この経験を糧に、後輩たちがさらに高い舞台へと挑戦してくれることを願っています。

コロナ禍で学び得た剣縁

令和3年卒 金本 龍輔

私たちの代は新型コロナウイルス感染症の流行とともに活動が始まり、厳しい制限の中で練習も十分にできず、次々と大会が中止になる悔しい日々が続きました。

目標としてきた舞台が突然消え、虚しさや喪失感に心が沈むこともありましたが、それでも大学剣道部の4年間で得た学びは、今も自分の大きな糧となっています。特に「剣縁」の理念は、剣を交えることで生まれる人とのつながりの大切さを教えてくれました。その縁は剣道の場合だけでなく、社会や私生活にも広がり、今もなお自分の支えとなっています。勝ち負けだけでなく、日々支えてくれた仲間や家族の存在、周囲との絆の重要性を強く感じ、感謝の気持ちを持つことができました。

秋季四大戦も中止となり、寂しさが募る中で学習院大学を会場に引退試合の代替大会が開かれました。仲間とともに全力を尽くし最後を締めくくることができたことは、今でも思い出たくなっております。未曾有の感染症流行という困難に直面しながらも、仲間と支え合い、諦めずに乗り越えた経験が自分の自信につながりました。

剣道で培った精神力や学びは、この先も一生の財産となり続けることを実感しています。失ったもの以上に得たものが多かった4年間、剣縁への感謝を胸に、これからも出会いや学びを大切に歩んでいきたいと思っています。

仲間と掴んだ新人戦の舞台

令和3年卒 関根 実紗

私が在籍していた当時は女子部員が少なく、団体戦に出場できるかどうかギリギリの人数で活動をしていました。

今回は大学2年生の時に出場した新人戦についてお話しします。当時、私が1年生だった頃の女子部員は私を含めて4人いましたが、選手は3人(1・2・3年生)で、1人はマネージャーだったため、団体戦は最低人数での出場でした。新人戦に必要な1・2年生の人数が足りず、出場を断念せざるを得ませんでした。2年生に進級した際には後輩が1人入部してくれましたが、それでも人数が足りず、新人戦への出場は無理だろうと諦めていました。

しかし新人戦2ヶ月前、家庭の事情で学校を休んだ後に部に戻ると、マネージャーだった同期が竹刀を握り、素振りをしていました。その姿を見て、「もしかしたら新人戦に出場できるかもしれない」という希望が一気に広がりました。

それから約2ヶ月間、部員全員で指導し、本人も必死に稽古を重ね、念願の新人戦団体戦に出場することができました。

1回戦目は代表戦の末、後輩が勝利し突破。2回戦目は敗れてしまいました。この新人戦は今でも心に残る試合です。剣道を始めてたった数ヶ月で大会に出場でき



るまで成長を成し遂げた同期のマネージャー、大将としてチームを勝利に導いた頼もしい後輩、試合に向けて支えてくれた部員全員に心から感謝しています。

現在は剣道から離れています。が、学生時代に仲間と共に努力した時間は、今も大切な支えとなっています。辛い時には厳しい稽古や仲間と切磋琢磨した時間を思い出し、これからも前向きに精進していきたいと思えます。現役部員の皆さんにはここで積み重ねる努力、経験は、きつと将来の自分を支える力になると思えます。これからの活躍を心から応援しています。

あの頃は気づかなかった日常

令和3年卒 岡田 康代

私は剣道初心者でマネージャーとして入部しました。わからないことが山ほどあり、マネージャーという肩書きでしたが、むしろ私が周りに支えられてばかりでした。特に同期には何度も助けられました。当時は恥ずかしさもあつてなかなか感謝の気持ちを伝えることができませんでしたが、同期の支えや優しさがあつたからこそ、剣道部を続けることができたと思います。

今回この文章を書くにあたり、同期と過ごした時間を改めて振り返りました。真っ先に思い出したのが、1年生の時に同期みんなで行った稽古後の洗濯当番です。洗濯が出来上がるのを待つ間、部活のことや授業のこと、廊下に座りながら同期と様々なことを話しました。女子更衣室に「G」が出て大騒ぎしたことも鮮明に覚えています。洗濯物を干し終わった後は、そのまま江古田駅付近に夜ご飯を食べに行く……という、当時は当たり前だった日常ですが、今

思えば貴重で戻ることのできないかけがえのない時間だったなと思えます。今は仕事に追われ、あらかじめ約束がないと友人とゆっくり話すこともできません。約束がなくても集まって語り合える時間がある、お金には代えることのできない価値ある時間でした。

私たちの代はコロナの影響で4年生の時に一度も部活動をする事ができず、合宿・関東学生・追いコン等、4年生の一大イベントは何も経験できませんでした。最後の年に同期みんなで団結して何かを成し遂げることができなかったことは、4年間の活動にぽっかりと穴が開いた気持ちです。大学生に戻ってコロナで失った時間をもう一度過ごすことはできませんが、同期がこの文章を読むことで、「当時の価値ある日常」を思い出すきっかけになれば嬉しく思います。

武蔵大学剣道部四年間の思い出

令和4年卒 嶋村 優

本記念誌には、武蔵大学剣道部で仲間とともに過ごした四年間の歩みを、各学年ごとの思い出としてまとめた。日々の稽古や行事の中で積み重ねてきた経験を、ここに記す。

新入生歓迎会から始まった剣道部生活は、期待と不安が入り混じる日々だった。初めて出場した四大戦個人戦では、対外試合の厳し



さと楽しさを肌で感じた。夏合宿では、倒れる者が出るほどの厳しさの中でも、仲間と支え合い最後までやりきった。そして明鏡杯団体戦では準優勝を果たし、チームワークの大切さを学んだ一年となった。

こうして基礎を築いた一年目を終え、私たちは次第に部の中心としての自覚を持つようになる。

二年生になり、主体となって臨んだ新人戦では、責任の重さと成長を実感した。白雉祭では大里家に泊まり込みで準備を進め、慌ただしい毎日を過ごしたが、豚汁は予想以上の売れ行きとなり、達成感を味わった。仲間との距離が一層縮まった一年であった。また関東女子学生個人戦において、酒井実祐が全国大会出場を果たす。

充実した活動が続く中、思いもよらない出来事が私たちの日常を一変させる。

三年目、新型コロナウイルスの影響により部活動は停止し、授業もオンラインへと移行した。大学に通うことすらできない日々が続き、剣道から離れる不安と向き合う時間が増えた。この期間は、当たり前前に稽古できていた環境のありがたさを強く感じる一年となった。

先の見えない状況の中でも、剣道を続けたいという思いは消えることはなかった。

四年目に入り、感染対策のガイドラインを作成し、大学側と話し合いを重ねながら部活再開に尽力した。道場が使えない中、体育館を借りて稽古環境を整えることに奔走した。最後の公式戦では、小川蒼太郎が個人戦で数十年ぶりとなる全国大会出場を果たし、四大戦団体でも準優勝という結果を残した。

多くの出来事を経て歩んだ四年間は、仲間とともに乗り越えたかけがえない時間である。この経験は、これから先も私たちの心に静かに寄り添い続けるだろう。



全日本女子学生剣道大会個人戦出場

平令和4年卒 酒井 実祐

私が武蔵大学剣道部に在籍した四年間は、各代がそれぞれの役割と雰囲気を持ち、世代を超えて影響し合い、中身の濃い時間を重ねた時代であった。先輩方との繋がりを通して、部の歴史と伝統の大切さを学んだ日々であった。

その中で、特に印象深い経験が二〇一九年の第53回全日本女子学生剣道大会への個人戦出場である。代表として名を連ねたときの緊張と責任は、今も忘れられない。

部全体から支えを受ける中で、自分一人では決して立つことのできない舞台であることを強く実感した。結果だけでなく、その過程

を含めて得難い経験であったと感じている。武蔵大学剣道部で培った経験は、今も変わらず私の支えとなっている。創部六十五周年を迎えられた本部の歩みに敬意を表するとともに、今後も本部が代を超えて受け継がれ、さらなる発展を遂げることを願っている。



2018年関東女子学生剣道優勝大会



2018年関根杯

新しい風と伝統

令和5年卒 菅田康二郎

私の代は男子3名・女子1名という構成で、極端に人数が不足していた代でした。また、同期それぞれの母校は人数が多く、全員が大学生活に不安を抱えてスタートしました。実際に活動を進める中でも、人数の少なさは他大学や他の代と比較して不利に感じる場面が多くありました。最終学年時にはほぼ全員が何らかの役職を担わなければならず、主将の私だけでなく、みんなに大きな負担をかけたと思います。本来主務のキャラクターではない森田、剣道に集中したかったであろう会計古賀、マネージャーとして支えてくれた石山……。良い思い出ばかりではなかったと思いますが、3人のおかげで部は成り立っていました。

活動内容に関しても、大学1年の終わりから大学3年の終わりまでの2年間はコロナとの戦いでした。当時は過剰な取り締まりに悩まされ、他大学が稽古できる中で私たちは活動自粛を強いられることもありました。先輩の尽力で稽古場所を確保できても、何かしらの制限が入り、後輩に方針をはっきり伝えられないもどかしさもありました。そんな状況でも、やめずに残ってくれた責任感ある同期と、剣道を愛する（少し変わった）後輩たちには感謝しかありません。大学4年時も合宿の自粛など伝統行事ができなかったことは、個人的にも悔しい思い出です。

さらに私は4年時に大きな足の怪我をし、活動実績にも迷惑をかけた。しかし、怪我をしてから卒業までのほぼ1年間こそ、「大学剣道の思い出」として最も心に残る時間となりました。あの時、



2019年
第53回全日本女子学生剣道選手権大会

私たちの代を支えてくれた後輩たちが、従来の部とは違った新しい風と伝統を作り、コロナ以降の剣道部の礎を築いてくれました。(もちろん全員優等生ではなく、問題児の一面もありました。笑)

最後に、今までの伝統を私たちに継承してくださった諸先輩方、あの厳しい環境を何とか乗り越え、今の剣道部の形を構築した仲間たちに心から感謝します。これからの剣道部がさらなる飛躍を遂げることを祈るとともに、次の世代に自分の代の風を引き継いでいってほしいと思います。

皆さまお久しぶりです！

令和5年卒 富田あすか (旧姓：石山)

早いもので、大学を卒業してからもう3年が経とうとしています。大学時代を振り返ると、辛かった思い出も多くありますが、それよりも楽しかった思い出ばかりが浮かんできます。

1年生の頃はまだコロナのこの字もなく、自由気ままに学生生活を謳歌していたと思います。新歓コンパではマクドナルドのハン



バーガーが100個出てきたり、夏合宿ではみんなで服のまま川に飛び込んだりなど、先輩方とも楽しい思い出をたくさん作る事ができました。

2年生の時に新型コロナウイルスが大流行し、ほとんど部としての活動ができなくなりました。そんな中でもこまめに連絡を取ったり、規制が緩和されたら皆で集まったりするなど、同期や先輩との繋がりはずっと保っていられました。授業もオンラインになり学生同士の交流ができない中で、同期の存在はとても心強いものでした。3年生になる頃には、まだまだ制限されつつも、少しずつ活動ができるようになりました。私自身は選手からマネージャーに転向しました。おそらく前代未聞のことだったと思いますが、私の決断を快く受け入れ、居場所を作ってくださいくださった当時の主将の鳴村先輩と主務の小坂先輩、そして戸賀崎監督はじめ先生・先輩方にはずっと感謝しています。

4年生になってもなかなか全員揃っての活動ができなかったり、夏合宿が直前で中止になったりもしましたが、愉快な同期たちと可愛い後輩達にも恵まれ、楽しい日々を過ごすことができました。稽古後はだいたい皆で、「龍華園」でワイワイご飯を食べて帰ったりしました。そんな何気ない日常が、私の大切な思い出です！



2019年四大戦

夏合宿再開

令和6年卒 金井 將瑛

現役時代の思い出は夏合宿です。

山梨県の山中湖近郊での開催で、八月中旬という猛暑の時期でありながら涼しい気温と冷房完備の剣道場で快適な稽古で夏合宿を開催することで出来ました。

夏合宿のスケジュールは中々厳しい内容で、早朝の足さばき、朝食を挟んで午前練習、昼食後の午後練習、夕食後の夜練習、と言葉通り剣道に浸かるような五日間を過ごしました。歩くだけで足裏に激痛が走り、手に力が入らなくなるほど疲労しながらも、互いに鍛え合い、休憩中や食事中は他愛もない話をするという貴重で至福な



ひと時となりました。

私達令和二年に入学した代（相澤、香川、安住、金井）は新型コロナウイルスの感染症拡大に伴う緊急事態宣言が発令された時期に入学した代で、大学の授業は全て自宅オンライン授業を受講し、部活動は全て活動停止という状態から学生生活が始まりました。武蔵大学の剣道場で初めて稽古したのは二年次で、剣道場の雰囲気慣れないながらも稽古したことをよく覚えています。

そんな日常を経験した中で、いつの間にか武蔵大学剣道部として仲間達と共に稽古に励むことが当たり前になり、夏合宿に臨むまでに至っている現状を見て、コロナ前の剣道部へ戻りつつあることを実感した夏合宿でもありました。

ここまで剣道部としての活動をコロナ前の状態に近づけることが出来たのは、当時様々な制限を受けながらも剣道部を繋ぐべく動いて頂いた先輩方、剣道部の伝統をご指導頂いた先生方や武蔵剣友会の先輩方、そして何よりも運営にご協力頂いた同期や後輩達のお陰に他なりません。この場をお借りして感謝申し上げます。

女子部の再出発

令和6年卒 安住 幸恵

私たちの代は入学時に新型コロナウイルスが流行し、1年間丸々部活ができませんでした。

また、2年生になると共に、先輩にプレイヤーの女子部員がおらず私は女子主将になりました。

1年間コロナで何も活動できない中でしたが、関東学生に出場するために部員を獲得しなければならず、自分の人脈をフル活用して勧誘すると共に、結果として、一個下の代は4月に5人入部してくれ、何とか団体戦に出られる人数の確保ができました。

大学入学当初から掲げていた、全日本学生への出場は2〜4年生の活動期間で叶いませんでしたが、3度とも全日本学生まであと一歩のところまで駒を進めることができました。

また、四大戦では「学習院が優勝して当たり前」というような雰囲気漂う中、優勝を二度することもできました。

強豪校相手も「下剋上」の気持ちで最後まで戦えるようなチームを作ることができ、その後も毎年数名の女子部員が続いて入部してくれるようになり、武蔵大学女子剣道部の名前を轟かすことができたのではないかと思います。

後輩たちには厳しい発言や稽古内容等、今考えると様々な迷惑もかけてきたかと思えます。そんな中でも最後までついてきてくれたことには感謝しかありません。

私たちが掲げ続けている、全日本学生出場の目標を現役生たちが叶えてくれることで、4年間もがいてきたことが報われる気がします。

女子部員が途絶えることなく、今後もなお一層名を轟かせてくれることを願っています。

2024 関東学生剣道優勝大会

令和7年卒 倉島 春太

4年生として迎えた最後の関東学生剣道優勝大会は、今でも鮮明に記憶に残っている。

当時の選手メンバーは、4年生が自分一人。ほかは1、2年生だけという若い構成だった。大学剣道の経験値やチームとしては他校に比べると劣っていたが、それでも全員で必死に稽古に励み、大会当日を迎えた。

関東学生本番では、2回戦で一橋大学との試合が代表戦にもつれ込んだ。下級生たちが相手に立ち向かい、最後は大将の自分に対してしてくれた一戦だった。

大将戦は引き分け。主将として戦いながら、後輩たちが必死につないでくれた気持ちの重さを痛いほど感じていた。

そして迎えた代表戦。

緊張や責任感という言葉では言い表せないほどの重みがあった。自分が勝てばチームが勝つ。負ければ終わる。そんなプレッシャーの中で立ち向かったが、結果は敗北。

後輩たちがつないでくれた勝機を、自分の手で掴みきれなかった悔しさは、今でも忘



れられない。

試合後、申し訳なさど悔しきで自分を責めた。しかし、そんな自分にかけられた後輩たちの言葉や態度は、優しさど感謝の気持ちに満ちていた。その瞬間、「主将とは勝敗だけで評価されるものではない」と初めて気づいた気がする。

今振り返ると、あの日の代表戦は、自分にとって、負けただけの試合^レではなかった。

下級生たちがつないでくれた思いを背負って戦った経験は、社会人になった今も、自分の行動の芯になっている。責任から逃げないこと、仲間に感謝すること、そして結果よりもプロセスを大切にすること。あの代表戦が、私にその大切さを教えてくれた。

武蔵大学剣道部での日々は、負けることも含めてかけがえのない財産だ。

悔しさも喜びも、すべてが今の自分をつくってくれた。これからもOBとして、後輩の皆が全国の舞台で活躍するのを期待し、心から応援している。

個性豊かな10人

令和7年卒 鈴木 愛梨

2025年卒女子主将の鈴木です。私たちの代は10名おり、在籍人数が非常に多い印象があったと思います。そのため入学当初は活気に満ち溢れている一方で、未熟さゆえに監督やOB、先輩方にたくさんのご迷惑をおかけしてしまうことも多くありました。稽古に垂れネームを忘れてしまう者や、検量がなかなか通らない者、ご飯の食べすぎでお腹を壊してしまう者、挙げてしまえばキリがありません。

せんが、色々な意味で個性豊かな10人でした。それでも、日々温かくご指導いただいたことに、心より感謝しております。

しかし、学年が上がり部活動を牽引する立場となるにつれ、この10人だからこそ乗り越えられた壁も多くあったと感じています。女子主将として特に感じていた私たちの強みは、互いを高め合える関係性でした。試合が近くなれば後輩を巻き込みながら自主練習に取り組む、試合の反省や課題についても仲間同士で話し合う姿が日常的に見られました。

また、合宿や試合の前には話し合いを重ね、部活動全体の技術力の向上を目指した稽古内容を主体的に考えてきたことも印象に残っています。さらに、剣道の行事に積極的に参加する人が多く、フランスでの交流会やオープン大会などにも多くの同期が参加し、それぞれの成長に繋げることもできました。

最後の関東学生や四大戦で結果を残すことはできませんでしたが、そこに至るまでの過程を、同期を含めた部員たちと共に歩めた



ことは、大きな経験と財産です。

もちろん、剣道に真剣に向き合うだけでなく、夏には花火大会へ行き、冬にはスノボへ行き、卒業旅行ではみんなでサウナに入り夜更かしをするなど、剣道以外の素敵な思い出も含め、多くの先輩方や同期、部員の支えがあったからこそ充実した4年間となりました。改めて、深く感謝申し上げます。

剣縁に感謝

令和8年卒 佐野 一帆

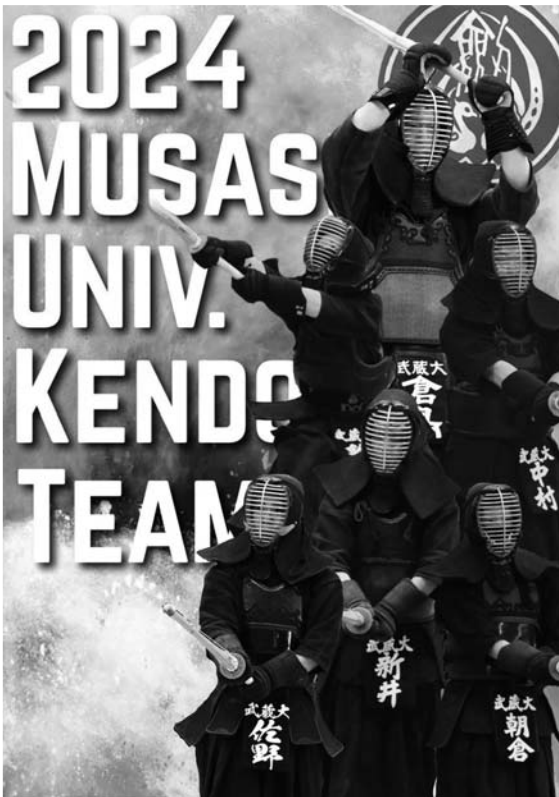
2025年度、剣道部主将を務めさせていただきました佐野です。入部当初、私たちの代はわずか4名でのスタートでした。少人数ゆえの不安はありましたが、その分一人ひとりの距離が近く、互いの成長を感じながら切磋琢磨できる充実した日々でもありました。しかし学年が上がるにつれて、勉強や生活環境の変化などにより仲間が徐々に離れ、最終学年を迎えたときには2名となりました。そんな状況の中で主将を務めることになり、部を牽引する責任の重さと、自分の力不足を痛感する場面が多くなりました。思うように部をまとめられず不甲斐なさを感じた日々もありましたが、それでも最後まで続けることができたのは、先輩方の温かい支えと後輩たちの献身的な協力があつたからです。

また3年次の冬には、第十回武蔵大学剣道部杯高校生剣道錬成大会の実行委員長を務めさせていただきました。節目となる大会の運営は想像以上に大変で、準備の段階から多くの課題に直面しましたが、それらを一つひとつ乗り越える中で、責任ある立場としての自

覚と行動力が磨かれていきました。大会当日、参加した高校生たちが真剣に竹刀を交え、剣縁を深める姿を見たとき、これまでの努力が形となったことを強く実感し、大きな達成感を得ることができました。

4年間の部活動生活を振り返ると、技術面での向上はもちろんのこと、人として大きく成長できたと感じています。大学剣道で目標としていた全日本学生への出場と四大戦の優勝は達成できませんでしたが、目標に向け自身を律し努力することの大切さ、責任ある立場で物事に取り組むことの大変さは、この部で過ごした時間が教えてくれた貴重な学びであり、財産です。決して大規模な部活ではありませんでしたが、その分深い絆を紡ぐことができた4年間でした。ご指導をいただいたすべての皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。





武蔵大学剣道部杯
 高校生剣道錬成大会
 ポスター



第四部

現役部員の青春

「剣縁」を胸に

現武蔵大学剣道部主将 土方 一斗

武蔵大学剣道部が創部65周年という大きな節目を迎えられましたことを、現役部員を代表して心よりお慶び申し上げます。

65年という歳月は決して平坦なものではなく、その一つひとつの積み重ねの中に、歴代の諸先輩方の努力、挑戦、そして武蔵大学剣道部への深い愛情が刻まれてきたのだと感じております。幾多の時代の変化を乗り越えながら築かれてきた伝統と誇りは、今もなお私たちの活動の根幹を支え続けています。私たちは、その歴史の延長線上に立つ存在であることを常に自覚しなければなりません。

これまで本学剣道部を支えてくださったOB・OGの皆様、指導にあたってくださった先生方、そして温かく見守り続けてくださった関係者の皆様のご尽力があったからこそ、今日の武蔵大学剣道部があります。先輩方が築き上げてこられた歩みは、単なる過去の実績ではなく、今を生きる私たちへの責任と期待でもあると受け止めております。

私たちは「剣縁」を胸に、日々活動しています。先輩方から受け継いだご縁を大切にし、その繋がりをさらに広げ、深めていくことが、次の時代を担う現役部員の使命だと考えています。歴史に恥じぬ集団であるために、そして未来から振り返ったとき誇



武蔵大学剣道部 MUSASHI UNIVERSITY KENDO TEAM

＼大繁盛の白雉祭／



＼福島県にて合宿を行いました／



＼いつでも全力！！／



活動日 [月曜/火曜/木曜/金曜] 17:30-19:00 [土曜/祝日] 10:00-12:00

場所 武蔵大学 江古田キャンパス 10号館5階 武道場

まずは、本大会にご参加いただいた高校の皆様、ならびに開催にあたりご協力いただいたすべての皆様へ、心より感謝申し上げます。当部が掲げる「剣縁」の輪を広げるとともに、本大会をきっかけに、武蔵大学剣道部の活動や雰囲気を知っていただけたら幸いです。



@MUSASHI.KENDO

少しでも気になった方！ 見学、参加お待ちしております！お気軽にDMしてください！



れる1年を刻むために、覚悟をもって日々を積み重ねてまいります。創部65周年というこの節目が、これまでの歩みを振り返る機会であると同時に、新たな歴史の始まりとなることを願っております。武蔵大学剣道部がこれからも多くの剣縁に支えられ、さらなる発展を遂げていけるよう、部員一同精進してまいります。結びに、これまで本学剣道部を支えてくださったすべての皆様へ、改めて深甚なる感謝を申し上げます。

部員紹介 ~2年生~



経済学部経営学科1年の岡村有悟です。大学では会計や経営を中心に学んでおり、将来は幅広い分野で活躍できる力を身につけたいと考えています。オフの時間は友人と過ごしてリフレッシュしています。部活動を通じて得た経験を、日々の生活にも生かしていきたいです。



経済学部経営学科の千葉蒼天と申します。一年次のゼミナールでは、経済学に対する人工知能の運用や、ダイバーシティの勉強をいたしました。どちらも興味深く、現代社会について考える良い機会となりました。次年度は、より主体性が重視されるゼミナールに所属しますが、自らの力を十二分に発揮し、学びを深めていきます。



経済学部 金融学科1年の宮原 蓮 (みやはら れん) です。私は、小学生1年生の頃から剣道をやっていて、今も好きで続けています！剣道だけでなく、美術や音楽などにも興味を持っており、月に一回ぐらいいは3.4時間ぐらしかけて絵を描いたり、週2ぐらいの頻度でカラオケにも行ったりしています！



経済学部経済学科の山本凌大です。剣道は小学校1年から続けています！剣道だけでなくスキーもやっていて2歳からやっています。また、ONE OK ROCKが好きで去年の夏にライブに行ったりしました。これからもたくさんのライブに行ってみたいと思っています！



経済学部金融学科吉岡武士です。趣味はいろいろありますが、一つあげるとするならば旅行です。部活のない期間などは、友達や家族といろいろなところへ旅行します。大学生のうちに日本全国旅行したいです。



高島一静です。経済学部金融学科です。好きなことはYouTubeを見ることです。ひよごんというYouTuberの方の大ファンです。苦手なことは朝起きることです。よろしくお願ひ致します！



経済学部経営学科の外山寧々です。高校1年生の頃から第1志望だった武蔵大学で、大好きな剣道を続けられることを心から嬉しく思っています。これからも「剣縁」を大切に、感謝の気持ちを忘れず、楽しく稽古に励んでいきたいです。



経済学部経営学科の山口那南美です。入学して1年が経とうとしている今は部活、バイト、剣道中心の毎日を送っています。大学生になってできることが増えとても楽しく、充実しています。まだまだ家族や先輩方にたくさんご迷惑をおかけすることもあります。凛とした大人になれるよう頑張りたいと思います。

部員紹介 ~3年生~



経済学部、金融学科の相澤琉太郎です。休日では同期の原・今井と囲碁や将棋をすることが多いです。また部活動後に先輩とダーツに出かけることもあり充実した日々を過ごしています。先日ゼミの大会があったのですが「訪日外国人が日本経済に与える影響」というテーマで準優勝することができました。剣道の目標は個人、団体どちらも全日本学生選手権に出場することです。



新潟県出身、経済学部経済学科の今井悠乃です。趣味は美味しいご飯屋さん巡りや漫画や小説を読んだり、映画を見たりすることです。最近では筋トレもハマっていて、常にインドアとアウトドアを反復横跳びしています。オフの日は友達と遊びに行ったり、美味しいものを食べたりして東京生活を満喫しています！



経経済学部経済学科の木場達也です！私は特にこれといって趣味はありませんが武蔵大剣道の65周年という記念すべき日に在学できて感無量です。私は剣道をやっている人と話すことが多くプライベートでも遊んだりします。いつも何気なく遊んでいますが実はこれも武蔵大剣道部の垂れ幕にある剣縁なのだと改めてこちらを書いて感じました。武蔵大は最高ですね。



経済学部経営学科所属高橋幸輝です。現在、山崎ゼミナールに所属し、組織心理学を中心に、個人やチームの行動が組織に与える影響について学んでいます。今年のゼミ大会ではチャレンジ枠で優勝することができました！！オフはサウナで整ってから爆睡するのが大好きです！！



経済学部金融学科の成嶋悠です。最近は単発バイトにハマっています。希望したシフトに入れない時でも効率よく収入を得られる点が魅力です。今年度のゼミ大会ではチャレンジ枠で優勝することができました！！オフはサウナで整ってから爆睡するのが大好きです！！



経済学部金融学科の西岡優太です。趣味は読書です。本はそんなにたくさん読んでるわけじゃないですが時間がある時に読むくらいです。ミステリーとか結構読んでいて最近アツかったのは「アリス殺し」です。どうぞ読んでください



経済学部経済学科の原昊太郎（はらこうたろう）です！出身高校は神奈川県桐光学園高等学校です。記念誌に載るといことで、少しありきたりかもしれませんが武蔵大学剣道部の好きなどころを紹介します！それは"みんながみんなのために頑張ってる"ところ。これは尊敬してる人から借りた言葉なのですが、誰かのために自分が一生懸命になれるこの部活がだいすきです。



経済学部経済学科の朝倉心愛です！
現在、女子副主将を務めております。
出身高校は東海大菅生高等学校です。
私はMrs. GREEN APPLEが大好きで、ファンクラブにも入会しております。
ライブによく足を運び、グッズもたくさん買ってしまったため、頑張ってバイトして貯めたお金は気づいた時にはすっかりかんでます…
今後とも、武蔵大学剣道部へのご支援のほどよろしくお願いいたします！



服部紗也香です。経済学部経営学科に所属しています。趣味は美味しいご飯屋さん巡りをすることで、オフの日は遊びに行ったりアルバイトをしたりして過ごしています。ゼミでは人事分野を中心に、労働環境や制度、少子高齢化などをテーマに研究しています。よろしくお祈りします。



経済学部経営学科渡辺暖果です！
書く内容に大変迷いますが、私の大好きな同期について話をしたいと思います！全員とてもキャラ濃いですが、剣道のことになると1番熱くなれる代だし、幹部として色々不安なことも多いですが、この同期ならなんとかなるでしょ！って思えるほど頼りがいがあります！何より一緒にいて楽しいです！そんな同期とこのような貴重な65周年という機会を迎えることができても光栄に思います(^^)

部員紹介 ~4年生~



経済学部経営学科所属、剣道部主将の土方です。
武蔵大学剣道部に入学して本当によかったと、私自身強く感じています。
一人でも多くの部員が同じように思える部にしていくことが目標です！
オフの日はもちろん、日常的に筋力トレーニングを行い、粛々と自分と向き合っています！



宮城県出身の阿部隼です。経済学部金融学科に所属しています。
オフの日は基本的に防具屋で働いています。帰省した際は釣りやスノーボードをしまくっています。
家で寝るより車中泊のほうが多くなるのが多々ありました。



新井海渡と申します。経済学部経済学科に所属しており、ゼミでは関心のある社会問題について、経済学的な実証分析により原因を特定し、解決策を検討しています。
部活動がある日は全力で稽古に取り組み、オフの日は高校や剣友会での稽古、アルバイト、友達と遊びに行くなど、充実した日々を過ごしています。



名前：杉原 真澄
学年：4年生
学部：経済学部
学科：経営学科
ゼミ：マーケティング
段位：四段
剣道歴：11年目
身長：163cm
体重：61キロ
利き手：右手
利き足：右足
得意技：小手打ち
苦手な技：その他全て
特技：肩甲骨が飛び出ること
趣味：海外旅行と剣道
好きなご飯：寿司
夢：200歳までに八段を取ること



経済学部経営学科、見市灯です。
スケジュール帳が埋めたいがために、稽古、遊び、バイトに明け暮れている日々を過ごしています。
大学生のうちにしかできないこと、持ち前の行動力を活かしてこれからも仲間たちとたくさん思い出をつくってきたいと思います！



経済学経済学科の小松千乃です。大学では経済学を中心に学び、日常の出来事や社会の動きと結びつけて考えることを大切にしています。休日や空いた時間にはカフェでアルバイトをしており、人と接することにもやりがいを感じています。SNSで見つけた美味しいお店を巡り、実際に食べに行くのが好きです。

武蔵大学剣道部年譜

年次	項目	部長	師範	監督	主将	主務
昭和						
34	11月同好会発足 6名					
35	四大学第一回親善試合(2位) 12月 部昇格				長谷川 勲	後藤 一於
36	4月 部発足 部長に伊能敬先生就任	伊能 敬		大沢卯之助	後藤 一於	熊井 龍一
37		伊能 敬		大沢卯之助	後藤 一於	熊井 龍一
38	師範に関根日吉教士七段就任	伊能 敬	関根 日吉	大沢卯之助	小池 幸夫	窪田 和孝
39		伊能 敬	関根 日吉	長谷川 勲	大石計四郎	窪田 和孝
40		伊能 敬	関根 日吉	長谷川 勲	渡辺 昭夫	窪田 和孝
41	東都(春) 初参加2位 (秋) 優勝 四大学男子団体 優勝	伊能 敬	関根 日吉	長谷川 勲	嶺岸 弘通	伊藤 巖
42	東都(秋) 優勝 四大学男子団体 優勝	伊能 敬	関根 日吉	長谷川 勲	天沼 茂太	坂井 達郎
43	東都(春・秋) 優勝	伊能 敬	関根 日吉	長谷川 勲	安藤 栄重	紙谷 正之
44	四大学新人 2位 東都(秋) 2位	伊能 敬	関根 日吉	長谷川 勲	三浦 昭久	松井 邦夫
45	東都(春) 3位 個人 野中裕治 2位 四大学個人 眞谷繁美優勝	伊能 敬	関根 日吉	緑川 毅重	眞谷 繁美	小泉 郁雄
46	関根師範八段昇段 東都(春・秋) 2位 四大学男子・女子(初参加) 新人2位	伊能 敬	関根 日吉	緑川 毅重	臼井 千明	野中 裕治
47	四大学男子団体 2位 個人 日下野隆 3位	伊能 敬	関根 日吉	緑川 毅重	田中 良明	中島 敬文
48	東都(春・秋) 2位 四大学女子団体・新人優勝	伊能 敬	関根 日吉	緑川 毅重	鈴木 進	内山 好雄
49	東都(春) 3位(秋) 優勝 個人 旭茂3位 四大学男子団体優勝・新人2位	伊能 敬	関根 日吉	緑川 毅重	鈴木 貞三	日下野 隆

年次	項 目	部 長	師 範	監 督	主 将	主 務
50	東都(春)3位(秋)優勝 四大学男子団体優勝	伊能 敬	関根 日吉	岡田 行一	笹岡 秀次	三輪 知志
51	東都(春)3位(秋)優勝 個人 元吉美代子優勝 四大学女子団体・新人2位 個人 元吉美代子2位	伊能 敬	関根 日吉	渡辺 昭夫	横山 賢司	旭 茂
52	関東学生女子ベスト8 東都(春)3位(秋)優勝 個人 元吉美代子優勝 湯田坂技子2位 四大学女子団体 優勝 四大学新人2位 個人 高瀬幸子優勝 中尾照代2位	伊能 敬	関根 日吉	渡辺 昭夫	鳥海 秀夫	福田 正人
53	東都(春)2位 四大学女子団体 2位 個人 梶目春規2位	伊能 敬	関根 日吉	安藤 栄重	内藤 寧	諸井 秀雄
54	関根師範範士号与授 湯田坂技子全日本女子出場 東都(春)3位(秋)優勝 四大学新人優勝・女子団体2位 個人 中村宜司 2位 中尾照代 優勝 時津美奈子3位	伊能 敬	関根 日吉	安藤 栄重	中村 稔	五十嵐 稔
55	男子団体全日本初出場 東都(春)2位 四大学男子・女子・新人2位 個人 黒川成子 2位	伊能 敬	関根 日吉	安藤 栄重	戸塚 満	水鳥 一
56	東都(春)優勝 四大学新人優勝 個人 渡瀬留美子 優勝 時津美奈子 3位 東都(秋)個人 土持敦志2位	伊能 敬	関根 日吉	安藤 栄重	勝部 徹	赤尾 嘉一

年次	項目	部長	師範	監督	主将	主務
57	四大学新人優勝 男子団体全日本出場 東都(秋)優勝	伊能 敬	関根 日吉	土屋 一徳	村田 和也	古山 淳
58	東都(秋)優勝 四大学男子・新人 優勝 女子 2位 個人 飯森秀志 2位 中村邦彦 3位 玉木浩毅 3位 金田久二子 2位	伊能 敬	関根 日吉	土屋 一徳	本間 正巳	武田 雄一
59	土持敦志全日本出場 東都(春)優勝 四大学男子優勝・新人 2位 個人 土持敦志 2位 中村邦彦 3位 菅野昭浩 3位	伊能 敬	関根 日吉	牧野 英一	土持 敦志	三木 眞人
60	東都(春)優勝(秋) 3位 (秋)個人 杉野茂男 3位	伊能 敬	関根 日吉	牧野 英一	土持 博一	永瀬 雅人
61	四大学個人 小池慎二 2位	伊能 敬	関根 日吉	牧野 英一	杉野 茂男	糸井 一保
62	四大学新人 優勝	伊能 敬	関根 日吉	牧野 英一	高橋 伸喜	丸山潤一郎
63	四大学女子優勝・新人 2位	伊能 敬	関根 日吉	牧野 英一	大平 正章	丸山潤一郎
平成 元	個人 河村あづさ優勝 東都(春)男子優勝・女子 3位 四大学個人 加藤優子優勝 国岡あかね 3位 四大学女子 優勝 個人 音和省一郎優勝 阿部浩之 3位 東都(秋)男子優勝・女子 3位 個人 菊池利輝 3位 紀伊義弘 3位	伊能 敬	関根 日吉	牧野 英一	渡辺 賢了	阿部 浩之

年次	項 目	部 長	師 範	監 督	主 将	主 務
2	男子団体全日本出場 東都（春）女子3位 個人 加藤優子優勝 四大個人 加藤優子優勝	伊能 敬	関根 日吉	笹川 敏広	紀伊 義弘	富田 真一
3	関根師範名誉師範就任 波多野登志夫師範就任	伊能 敬	関根 日吉	笹川 敏広	音和省一郎	高橋 誠
4	女子団体全日本出場	伊能 敬	波多野登志夫	笹川 敏広	音和省一郎	高橋 誠
5	伊能部長引退 名誉会長就任 四大学女子個人 梶谷浩子2位 東都（春・秋）女子団体2位 伊藤成康 部長就任	伊能 敬	波多野登志夫	笹川 敏広	若狭 公毅	高橋 誠
6	四大学女子団体 2位 四大学男子個人 水谷成克優勝 宮本健二2位 四大女子個人 梶谷浩子2位 東都（秋）女子団体 2位 女子団体全日本出場	伊藤 成康	波多野登志夫	渡辺 欣五	中島 久典	吉田 克也
7	四大学女子団体 優勝 四大学男子個人 宮本健二優勝 四大学女子個人 山本順子2位 東都（秋）個人 宮本健二2位	伊藤 成康	波多野登志夫	渡辺 欣五	宮本 健二	吉田 克也
8	四大女子団体 2位 四大女子個人 山本順子3位 東都（秋）団体 3位 東都（秋）個人 飯田雅裕3位	伊藤 成康	波多野登志夫	渡辺 欣五	中野 誠享	行本 哲
9	12月 松森信秀 師範就任 東都（春）女子団体 3位	伊藤 成康	波多野登志夫	渡辺 欣五	川津秀一郎	山本 剛
10	四大学男子団体 2位 東都（春）女子団体 3位 四大学個人 戸賀崎正彦2位 菊地佑季3位 東都（秋）団体 3位	伊藤 成康	松森 信秀	渡辺 欣五	飯田 雅裕	猪股 睦

年次	項目	部長	師範	監督	主将	主務
11	春季四大個人 今野英樹 3位 四大学団体男子 優勝 女子 2位 新人 男子 2位	伊藤 成康	松森 信秀	渡辺 欣五	一杉 太一	北村 聡彦
12	役員改選 剣道部規約作成	伊藤 成康	松森 信秀	渡辺 欣五	戸賀崎正彦 渡辺 博之	古川 大輔 高橋 洋平
13	明鏡杯 2位 四大学個人 三膳大輔 2位 四大学男子団体 2位	伊藤 成康	松森 信秀	関根 剛	小野 千尋	竹内 史好
14	四大学個人 梶山裕次郎 3位	伊藤 成康	松森 信秀	関根 剛	高橋 良平	竹内 史好
15	梶山裕次郎 全日本出場	伊藤 成康	松森 信秀	関根 剛	三膳 大輔	梶山裕次郎
16	明鏡杯 2位	伊藤 成康		関根 剛	小倉 佑介	梶山裕次郎
17	四大学個人 石井瞳 3位	伊藤 成康	酒井 勝	野村 泰久	小倉 佑介	高山 令
18		丸橋 珠樹	酒井 勝	野村 泰久	星野 将弘	高山 令
19	新道場開き	丸橋 珠樹	酒井 勝	野村 泰久	中澤 嘉洋	佐藤 弘之
20	四大学男子団体 2位	丸橋 珠樹	酒井 勝	野村 泰久	中島 弘雅	尾島 慶宣
21	四大学男子団体 2位 眞谷繁美 全日本高齢者武道大会優勝	丸橋 珠樹	酒井 勝	野村 泰久	石川 雄己	宮本 泰嵩
22	春合宿 (校内) 春季四大戦 男子個人 準優勝 田中将敬 第3位 高橋 輝 夏合宿 静岡県熱海 かもめのお宿 明鏡杯 女子団体 第3位 秋季四大戦 男子団体 第3位 女子団体 第3位	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	野村 泰久	中村亮太 工藤令枝	宮本 泰嵩
23	春合宿 (東日本大震災のため中止) 春季四大戦 男子個人 準優勝 田中将敬 第3位 高橋 輝 夏合宿 群馬県嬬恋村 ホテル鹿沢 真田屋 明鏡杯 男子団体 第3位 女子団体 第3位 秋季四大戦 男子団体 第3位 女子団体 第3位	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	野村 泰久	加部 雄平 飯野 実咲	野澤 舞

年次	項 目	部 長	師 範	監 督	主 将	主 務
24	春合宿（校内） 春季四大戦 男子個人 準優勝 高橋 輝 第3位 近澤直憲 夏合宿 群馬県嬭恋村 ヤマダ館 明鏡杯 男子団体 第3位 女子団体 第3位	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	野村 泰久	高橋 輝 倉林 舞	近澤 直憲
25	春合宿（校内） 春季四大戦 女子個人 優 勝 北 めぐみ 第3位 寒河江実来 夏合宿 長野県上伊那郡飯島町 秋季四大戦 男子団体 第4位 女子団体 第3位	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	野村 泰久	佐々木淳一 倉林 舞	倉林 舞
26	春合宿（校内） 春季四大戦 男子個人 第3位 野村竜生 第3位 宮澤 光 女子個人 準優勝 北めぐみ 第3位 本島育実 夏合宿 千葉県山武市蓮沼 浪川荘 秋季四大戦 男子団体 第3位 女子団体 準優勝 関東学連選抜・警視庁対抗戦 川邊 翔 出場	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	野村 泰久	川邊 翔 本島 育実	清水 周平
27	春合宿（校内）宮下優美子 夏合宿 千葉県 山武市蓮沼 浪川荘 明鏡杯 男子団体 第3位 秋季四大戦 男子団体 第3位 女子団体 第4位	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	野村 泰久	野村 竜生 宮下優美子	宮下優美子
28	春合宿（校内） 春季四大戦 女子個人 準優勝 西郷麗明 夏合宿 千葉県山武市蓮沼 浪川荘 明鏡杯 第3位 秋季四大戦 男子団体 第3位 女子団体 第4位	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	野村 泰久	鈴木弘二郎 吉田 知佳	三木 崇史
29	春合宿（校内） 春季四大戦 男子個人 準優勝 鈴木拓海 第3位 石川紘靖 夏合宿 長野県白馬村 北原館 明鏡杯 準優勝 秋季四大戦 男子団体 第3位 女子団体 第4位 関東学連選抜・警視庁対抗戦 麻生周馬 出場	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	野村 泰久	麻生 周馬 吉田 知佳	吉田 知佳

年次	項目	部長	師範	監督	主将	主務
令和 元	30 春合宿（校内） 春季四大戦 第3位 秋庭星太郎 夏合宿 群馬県片品村 梅田屋旅館 明鏡杯 男子団体 準優勝 秋季四大戦 男子団体 準優勝 女子団体 第4位 関東学連選抜・警視庁対抗戦 鈴木拓海 出場	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	野村 泰久	高橋 耕陽	石川 紘靖
	春合宿（校内） 夏合宿 新潟県湯沢町 丸大ハウス 明鏡杯 男子団体 優勝（第1回大会から17回連続で優勝してきた立教大学に決勝戦で勝ち優勝） 秋季四大戦 男子団体 第3位 女子団体 第3位 全日本女子学生剣道大会出場 酒井 実祐	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	戸賀崎正彦	鈴木 拓海 西郷 麗明	田中優太郎
2		丸橋 珠樹	笹岡 秀次	戸賀崎正彦	金本 龍輔 関根 実紗	天野 祐輔
新型コロナウイルス感染症予防対策のため、関東学生剣道連盟主催大会、各種大会、新入生歓迎会などの行事及び道場での稽古はすべて中止。 秋季四大戦も中止となったが、4年生の引退試合として学習院大学を会場に男子団体戦を開催。 卒部記念写真撮影会 令和3年3月13日（土） 「恵文館」道場において卒部・卒業記念写真撮影会を実施。						
3	春合宿※ 春季四大戦 女子個人 優勝 鈴木愛梨 準優勝 安住幸恵 夏合宿※ 秋季四大戦 男子団体 準優勝 女子団体 優勝 全日本学生剣道選手権大会出場 小川蒼太郎（4年） 明鏡杯※	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	戸賀崎正彦	嶋村 優 酒井 実祐	小抜 達哉
4	春合宿※ 春季四大戦 女子個人 優勝 鈴木愛梨 第3位 朝倉 綸 夏合宿※ 秋季四大戦 男子団体 準優勝 女子団体 準優勝 明鏡杯 男子団体 第3位 女子団体 準優勝	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	戸賀崎正彦	菅田康二郎 安住 幸恵	森田 晴貴

※新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止

年次	項 目	部 長	師 範	監 督	主 将	主 務
5	春季四大戦 女子個人 優勝 朝倉 繪 第3位 見市 灯 夏合宿 山梨県山中湖 東照館 (4年ぶりに実施) 秋季四大戦 男子団体 第3位 女子団体 優勝 明鏡杯 女子団体 準優勝	丸橋 珠樹	笹岡 秀次	戸賀崎正道	金井 將瑛 安住 幸恵	金井 將瑛
6	春季四大戦 男子個人 準優勝 倉島春太 女子個人 第3位 朝倉 繪 夏合宿 群馬県尾瀬戸倉マルイ旅館 明鏡杯 台風のため中止 秋季四大戦 男子団体 第3位 女子団体 準優勝 フランスオープン大会 男子個人優勝 倉島春太	鈴木 正明	笹岡 秀次	戸賀崎正彦	倉島 春太 鈴木 愛梨	神山 凜
7	春季四大戦 男子個人 優勝 宮原 蓮 女子個人 第3位 朝倉心愛 夏合宿 福島県二本松市岳温泉 明鏡杯 男子団体 準優勝 女子団体 準優勝 秋季四大戦 男子団体 第3位 女子団体 準優勝	鈴木 正明	笹岡 秀次	戸賀崎正彦	佐野 一帆 見市 灯	本松 侑大 阿部 錬

武蔵大学剣道部規約

武蔵大学剣道部規約

第一章 総 則

第1条 名称・所在

本部は、「武蔵大学体育連合会剣道部」と称し（以下本部という）、東京都練馬区豊玉上1の26武蔵大学内を所在地とする。

第2条 目 的

本部は武蔵大学の課外活動の一環として剣道を修練し、部員相互の親睦と人間形成を図ることを目的とする。

第3条 暴力排除主義

本部の活動は「体育」の一環として為されるものであり、暴力、体罰は一切これを排除する。

第4条 部 員

- ①本部員は本規則を充分理解し遵守しなくてはならない。
- ②本部員は定められた稽古、試合、その他行事等に参加しなければならない。やむを得ない理由により欠席する場合は、事前に口頭もしくは書面を以って主将に届け出るものとする。
- ③本部員は武蔵大学に在籍するものとし、4年間を超えることはできない。
- ④入部を希望する者は、別紙に定める入部届（別紙1）に記入、提出のうえ、その日より1ヶ月の仮入部期間を経て、幹部会の承認を以って入部することができる。
- ⑤本部員が、③項の事由以外の理由で退部を希望する場合は、別紙に定める退部届（別紙2）に記入し、主将に提出しなければならない。その際、一年分の関東学生剣道連盟会費・東京都学生クラブ会費（所属している者のみ）を自費とし、徴収する。なお、提出済みの個人情報等は、退部日をもって本部役員（主務または副務）が削除する。
- ⑥本部員が、本部の名誉を著しく傷つけた場合、又は本規約に反する行為で多大な迷惑をかけた場合は、幹部会の議決により退部する。
- ⑦本部員が、事情により休部を希望する場合は、別紙に定める休部届（別紙3）に記入し、主将に提出しなければならない。また、病気・怪我等での場合は、部費を休部期間中は免除する。その場合は、病院の診断書も一緒に提出すること。
- ⑧本部員は、武蔵大学卒業後、本部の卒業生で構成される「武蔵大学剣友会」（以下武蔵剣友会という）の会員となる。その際は武蔵剣友会会員名簿に必要な個人情報を提出しなければならない。

第二章 年 度

第5条 年 度

本部は1月1日から翌12月31日までを以って1年度とし、元号を以ってその年度を表示する。ただし、会計年度のみ4月1日から翌3月31日までを1年度とする。

第三章 組 織

第6条 上部団体

本部は武蔵大学体育連合会を上部団体とする。

第7条 幹部会

本部の最高議決機関として、幹部会を置く。本会は必要に応じて招集され、第9条で定められた役員で構成される。決議事項は出席役員の過半数を以って議決される。但し、補佐と専任マ

ネージャーは必要に応じて招集され、議決には参加しないものとする。なお、議長には主将が任ずる。

第8条 総会

本部は、役員任期末に当たる毎年12月に総会を開催し、年内の活動報告および会計報告（概算）を行うものとする。総会は、本部の全員が出席し、幹部会の主導のもと、年内活動の成果や課題について共有・議論を行い、次年度に向けた改善点を確認する場とする。なお、決算報告は会計年度末に準じて毎年3月末に書面を以って行い、全員に周知する。

第9条 役員

本部は次の役員をそれぞれ1名置くものとする。

部長：本部の最高責任者とし、武蔵大学の教授もしくは助教授の中から前任部長の推薦を以って選任される。

顧問：顧問は武蔵大学の教職員の中から部長の推薦により選任され、部長に次ぐ責任者とする。

師範：主として剣道の技術指導に任じ、本部の卒業生で組織する武蔵大学剣友会の推薦を以って選任される。

監督：主として部活動全般の指導を任じ、本部の卒業生で組織する武蔵大学剣友会の推薦を以って選任される。

男子主将：本部員の中から信任を得て選任され、本部員の代表、もしくは最高責任者として本部員を統率し、本部活動の計画、立案、実行に任ずる。男子部員の中から選出される。

女子主将：本部員の中から信任を得て選任され、本部員の代表、もしくは最高責任者として本部員を統率し、本部活動の計画、立案、実行に任ずる。女子部員の中から選出される。

主務：本部員の中から信任を得て選出され、常に主将と連携をとりながら、専ら本部活動の運営実務の遂行と、対外交渉に任ずる。

会計：本部員の中から信任を得て選任され、本部の翌年度の予算案の作成、当年度の決算の報告、毎月次会計処理に任ずる。

学連幹事：本部員の中から信任を得て選任され、関東学生剣道連盟の幹事会に出席し、同会との連絡調整に任ずる。

補佐：男子主将、女子主将、主務、会計は各々必要に応じてその補佐を選任することが出来る。この場合は男子副将、女子副将、副務、副会計と称す。

専任マネージャー：本部員の中から本人の希望により主将より指名を受け、主として主務の指示により日常生活の部活動の世話役に任ずる。

第10条 役員任期

①第9条に定められた役員（会計は除く）の任期は、第5条に定められた年度とし、当年度役員は毎年12月15日迄に次年度役員を選出し、関係者に通知する。

②役員再任、重任はこれを妨げない。

③やむを得ない事由により役員が任期途中で退任した場合は、後任を選任することが出来るが、その任期は、前任者の残存期間とする。

④会計の任期は、第5条に定められた会計年度とし、当年度役員は毎年12月15日迄に次年度役員を選出し、関係者に通知する。

第四章 会 計

第11条 会 費

- ①本部は本部員から月額2,000円の部費を徴収する。
- ②徴収期間を大学1年生の5月から大学4年生の12月までとする。ただし、1月分のみ徴収しない。
- ③合宿、コンパなど多額の出費を要する場合は、第①項に定められた部費の他に、適宜徴収することができる。

第12条 寄付金

- ①本部は、本部の卒業生で構成される「武蔵大学剣友会」もしくはその会員、本部員の保護者、大学当局より寄付金を受けることができる。
- ②第①項に定められたもの以外より寄付金を受ける場合は、幹部会の承認を得ることとする。

第13条 会計報告

会計役員は、各年度の会計報告（概算）を毎年11月末までに幹部会に報告して承認を得ることとし、毎年総会にて報告する。加えて、3月末に書面を以って全員に決算報告を行わなくてはならない。

第五章 活 動

第14条 活動内容

本部は次の項の「試合」又は「催し」等に参加もしくは主催をするものとする。

- ①本部で定めた稽古会
- ②関東学生剣道選手権大会
- ③四大学学生剣道選手権大会
- ④明鏡杯争奪剣道大会
- ⑤関東学生剣道優勝大会
- ⑥四大学運動競技大会「剣道」大会
- ⑦関東学生剣道新人戦大会
- ⑧関根杯、伊能杯剣道大会
- ⑨武蔵大学剣道部杯高校生剣道錬成大会
- ⑩その他本部活動に必要とされる事項と慣習的に行われる合宿、コンパ等。

第六章 改 定

第15条 本規約は、幹部会の全構成員の賛成を以って改定することができる。

制定 平成12年3月15日

改定 令和6年1月10日

全面的に改定

改定 令和6年11月17日

第三章 第8条に総会を追加

第三章 第9条に顧問を追加

第三章 第10条 ④に会計の任期を追加

第四章 第13条に会計報告（概算）と決算報告を追加

武蔵大学剣友会規約

武蔵大学剣友会規約

第一章 総 則

第1条 名称・所存

本会は「武蔵大学剣友会」と称し、本部を東京都練馬区豊玉上1-26-1 武蔵大学剣道部に置く。

第2条 目 的

本会は、会員相互の親睦を図り、併せて武蔵大学剣道部の発展を助成することを目的とする。

第3条 会 員

名誉会員：武蔵大学剣道部及び本会の発展に寄与した本会の総会で承認された者。

会 員：

①武蔵大学剣道部に4年間在籍した者及び4年次に在籍した者は、本会会員とする。

但し特に入会を希望しない者は、その卒業式の前日までに本会会長宛書面をもって届け出ること。

②武蔵学園に在籍した者で本会に入会を希望し、役員会で承認を得た者。

第4条 入会・退会

入 会：前条会員①項の者は、卒業日の翌日を入会日とし、②項の者は入会を希望した次の役員会で承認を得た日とする。

退 会：会員は、原則として終身会員とし、特別な場合に限り役員会の承認を得て退会することが出来る。

第5条 除 名

会員は、本会の名誉を著しく損なった場合は、役員会の決定により除名されることがある。

第二章 組織

第6条 総会

総会は、本会の最高機関とし、会長の召集により全会員の構成をもって毎年7月に開催し、議長は幹事長とする。総会の決議事項は、

①役員を選出（互選）

②年次活動方針の承認

③年度会計報告及び予算の承認

④その他重要事項の決定（規約の改定等）

とし、出席者の過半数を持って決定する。

第7条 役員会

役員会は、総会に上程する議案の承認を行う。会長の召集により役員及び剣道部監督の構成をもって、年2回以上開催する。但し、必要に応じその都度年代幹事を加えることが出来る。

第8条 三役会

緊急事案は、三役（会長、副会長、幹事長）の合議により、議案を決定、実施するものとし、その決定事項は事後、役員会に報告し、承認を得るものとする。

第9条 役員

本会は、以下の役員を置く。役員の任期は1年とし再任を妨げない。

・名誉会長 1名。名誉会員の中から選出する。

・会 長 役員の中から選出し、本会の代表として運営の最高責任を負う。

- ・副会長 2名。会員の中から選出し、会長を補佐する。
- ・幹事長 1名。本会員の中から選出し、本会運営の実務的責任を負い、総会の議長及び松森基金の理事長を兼務する。
- ・副幹事長 2名。本会員の中から選出し、幹事長を補佐代行する。
- ・会計監査 1名。本会員の中から選出し、決算等の会計監査を行う。
- ・会計幹事 1名。本会員の中から選出し、本会の会計処理全般と決算業務及び予算案の作成を行う。その補佐を会員も中から任命出来る。
- ・学連幹事 東京都学連剣友連合会の任命する役員となり、本会との連絡調整を行う。他の役員の兼務を妨げない。

第10条 年代幹事

卒業年次毎に原則1名。幹事会を通じ本会の運営を行う他、各卒業年次毎の会員の窓口として連絡、提携を図る。

第三章 会計

第11条 会計年度

本会会計は7月1日から翌6月末日をもって1年とする。

第12条 会費

本会の会員が支払う会費は、原則として年会費とする。但し、記念事業を開催する場合は、その都度、特別会費を徴収することがある。

第13条 その他収入

通常運営会費、記念偉業費を補填するために寄付金を募ることがある。

第14条 会計細則

本会の会計については、別途、細則を設け運営する。

第四章 事業

第15条 記念事業

本会は、剣道部創設周年記念事業、会員の八段昇段祝賀会等の事業を実施する。

第16条 松森基金

- ①本基金は、剣道部員の経済的困窮を、一時的に救済するために、小口融資制度「松森基金」を運営する。
- ②別途、松森基金規約を制定し、この規約に准じて運営する。

第17条 慶弔

会員もしくは家族より次の事項の通知があった場合は各々に応じ定められたお祝い、お悔やみを実施する。

- ①会員が七段に昇段した場合は、3万円相当の記念品を贈呈する。
- ②会員が六段に昇段した場合は、1万円相当の記念品を贈呈する。
- ③当会員が結婚した場合は、祝電を配信する。
- ④本学剣道部員が四段に昇段した場合は、1万円相当の記念品を贈呈する。
- ⑤会員本人が逝去した場合は、生花と弔慰金（香典）1万円を遺族に送達する。
- ⑥会員の父母、配偶者、子女が逝去した場合、弔電を配信する。
- ⑦武蔵大学剣道部員及び師範、部長、監督の父母、配偶者又は子女が逝去した場合は、生花を送達する。

⑧会長は、上記1項より7項以外、必要に応じて慶弔のお祝いもしくはお悔やみを実施できる。

制定 平成2年10月20日
改定 平成5年4月24日
改定 平成9年4月19日
改定 平成11年3月26日
改定 平成13年3月31日
改定 平成16年7月10日
改定 平成19年7月14日
改定 平成22年7月17日
改定 平成23年7月9日

武蔵大学剣友会会計細則

第1条 男子会員の年会費

男子会員の年会費は、10,000円以上とし、毎年7月末日までに指定口座に振り込むこととする。

第2条 女子会員の年会費

女子会員の年会費は、3,000円以上とし、毎年7月末日までに指定口座に振り込むこととする。

第3条 特別会費

特別会費の額は、記念行事毎に幹事会で決定する。

第4条 寄付金

寄付金は、一口1,000円とし本趣旨に賛同する会員は、毎年7月末日までに指定口座に振り込むこととする。

第5条 指定口座

武蔵大学剣友会幹事長にお問い合わせください。

制定 平成2年10月20日
改定 平成5月4月24日

編集後記

まず、限られた制作期間であったため、事前の寄稿案内が周知徹底できませんでしたことを、深くお詫び申し上げます。

短期間での原稿のご依頼となりましたが、ご協力をいただいた皆様、誠にありがとうございました。お陰様で、お世話になった先生方や先輩方の武蔵大学剣道部への思いを、また先輩から後輩へ伝え遺してほしい武蔵の心を、そして後輩から先輩方への感謝の気持ちを、そんな様々な思いと願いの込められた記念誌を制作することができました。

この場をお借りして、現在も道場の木札に新入部員の名前をお書き頂いている矢倉美喜代先輩への感謝の意を記念誌に刻んでおきたいと思えます。

矢倉先輩は、上皇后陛下美智子さまの父方伯父様の正田健次郎先生が学長でいらつしやつた昭和44年、新設された人文学部にご入学されました。経済学部しかなかった時代は男子部員のみであったため、女子剣道部員の第一期生が矢倉先輩です。道場の額に収められている先生方、卒業生の木札は、現在三百五十名を超えています。本誌巻頭の写真から、矢倉先輩が一字一文字、お一人お一人、心を込めてご揮毫頂いた品格ある筆使いが伺えます。ここに改めて、矢倉先輩の永年のご尽力に、心から感謝を申し上げさせていただきます。

これら多くの方々の思いが、武蔵大学剣道部と共に、いつまでも清々しく輝き続けることを切に願ひ、30周年記念誌編集長、村田淳一先輩が、かつての記念誌に記されたお言葉をご紹介し、編集後記とさせていただきます。

この小冊子が、先輩諸兄弟の心の片すみに、

爽やかな風を届けてくれることを願っている。

村田 淳一（昭和39年卒）

記念誌編集スタッフ

紙谷 正之

赤尾 嘉一

桑原 則行

佐藤安紀子

菅田 雅人

阿部 鍊



武蔵大学剣道部創部65周年記念誌

剣 縁

—— 伝え合う武蔵の心 ——

令和8年4月発行

編集・発行 武蔵大学剣友会
東京都練馬区豊玉上1-26-1
武蔵大学剣道部内

